

令和 2 年度

社会福祉法人 城島福社会 事業報告

- ふれあいの園 ケアプランサービス
- 特別養護老人ホーム ふれあいの園
- ふれあいの園 デイサービスセンター
- ケアハウス ふれあい荘
- ホームヘルプ
- 在宅支援室

- ふれあいの園みづまケアプランサービス
- ふれあいの園みづま館小規模多機能型居宅介護
- ふれあいの園みづま館認知症対応型通所介護

令和2年度 ふれあいの園ケアプランサービス

事業報告書

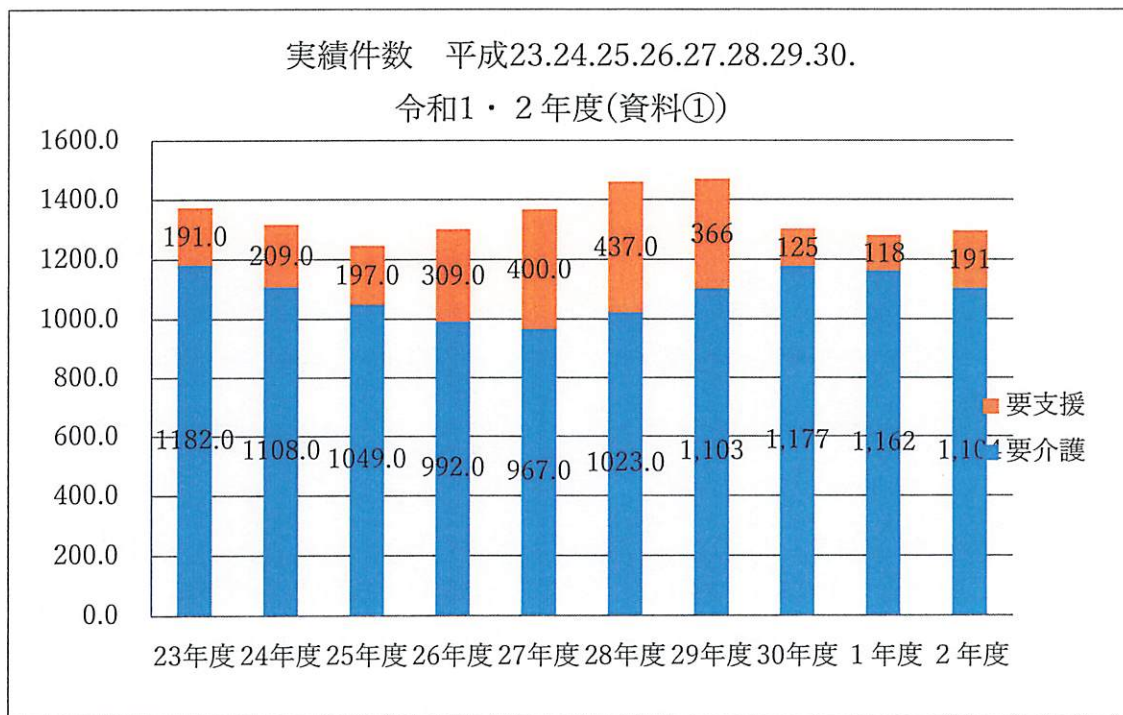
実績について（資料①②③）

昨年度と比べますと、要介護者で58件減、要支援者で73件増でした。介護支援専門員1人当たりの基準担当件数は月/35件となっており、要支援者を0.5件で計算し、今年度の稼働率は、介護支援専門員3名体制で95%でした。昨年度は97%

新規の契約件数は増えていますが、要介護者が減り、要支援者が増えた状況です。

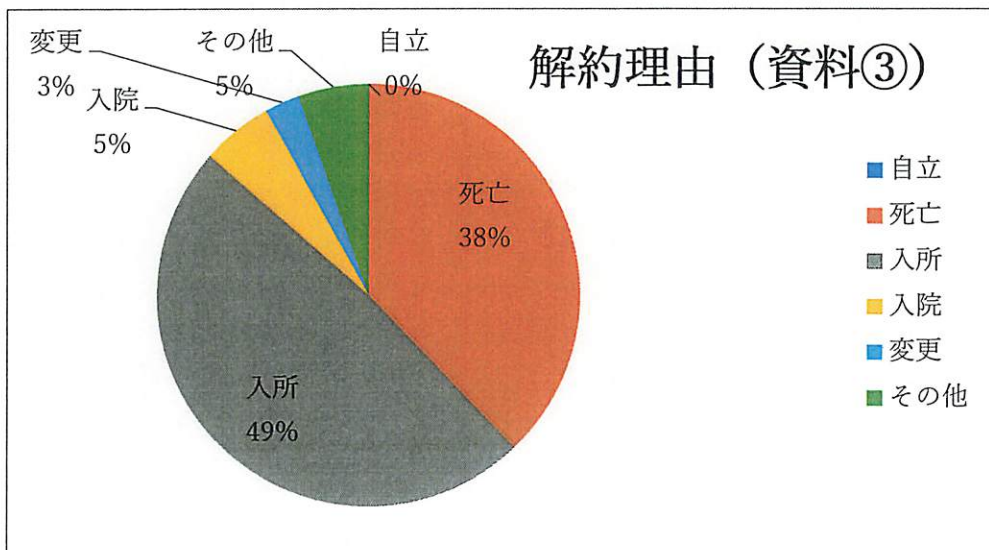
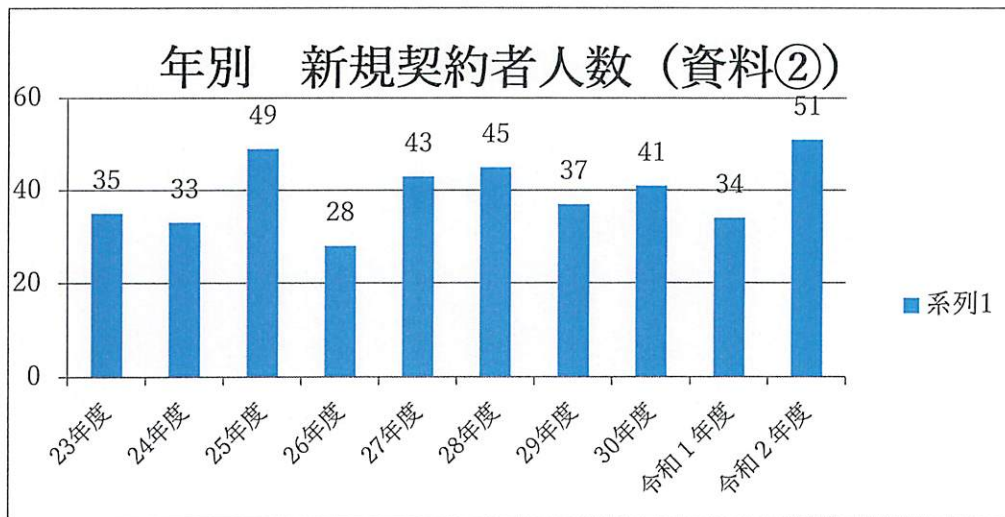
解約理由の約4割が死亡、約5割が施設入所となっています。

新型コロナウイルスの影響で、事業所の休止の期間、活動量が減り、下肢筋力低下にて転倒骨折事故や認知症状の進行、介護負担増により在宅介護が困難となり施設入所に至ったケースが目立った1年でした。



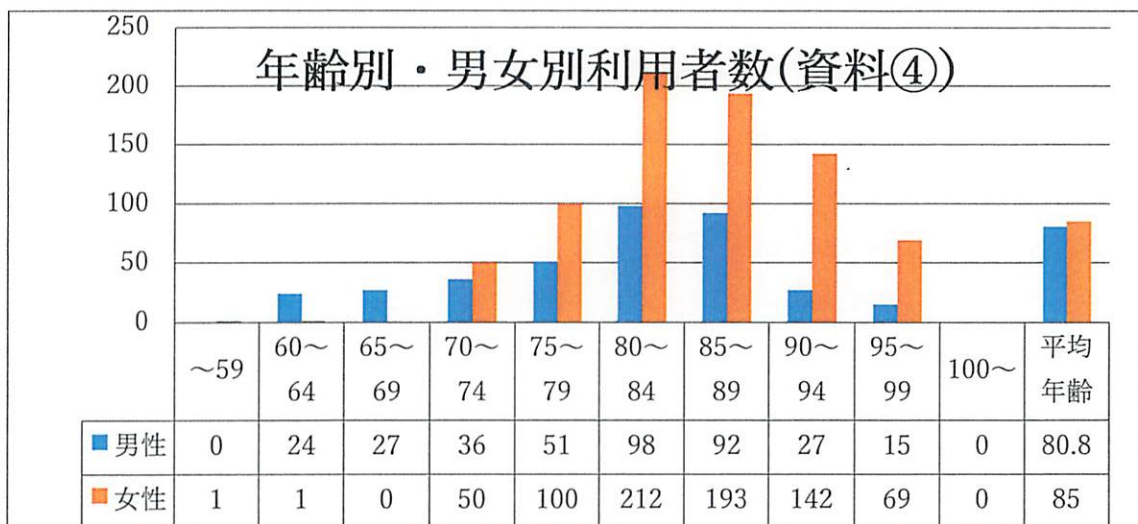
収入	令和2年度目標数	令和2年度実績	達成率	令和1年度実績
利用者延べ数	1,240	1,199	97%	1,221
総収入	17,559,000	17,041,550	97%	17,503,836

支出	予算額	実績額	執行率	人件費率	職員増減数
事業費支出	368,000	312,011	85%	96%	増 0 名
事務費支出	736,000	657,539	89%		減 0 名



・年齢別・男女別利用者数について (資料④)

平均年齢 83.5 歳、男性 80.8 歳、女性 85 歳、今年度は 45 歳の 2 号被保険者が契約されたため、平均年齢は若干若くなっています。



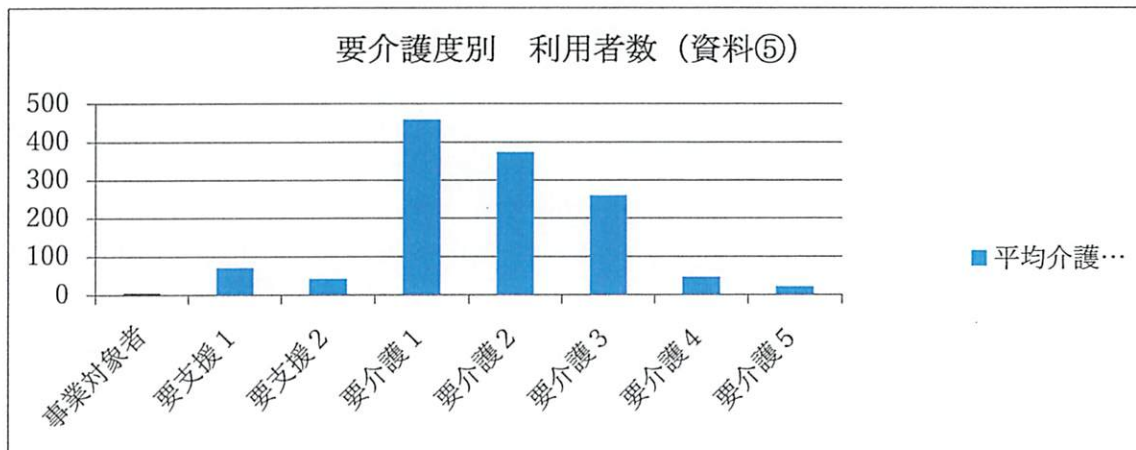
・介護度別の利用者人数について (資料⑤)

平均要介護度は 1.92

昨年度は 2.01 (重度の要介護者が解約し要支援者が増えたため)

男性 2.03、女性 1.87

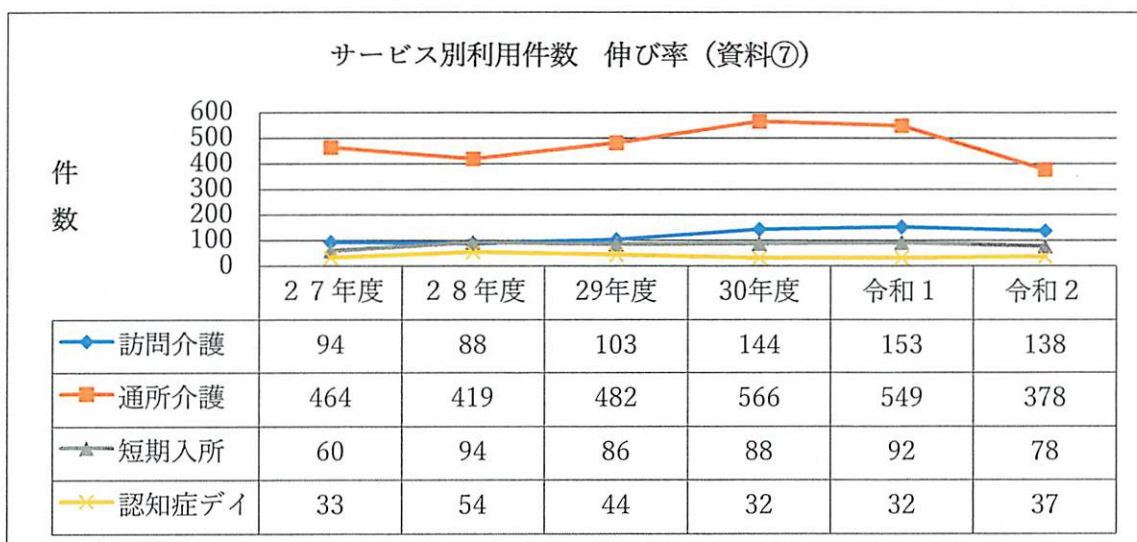
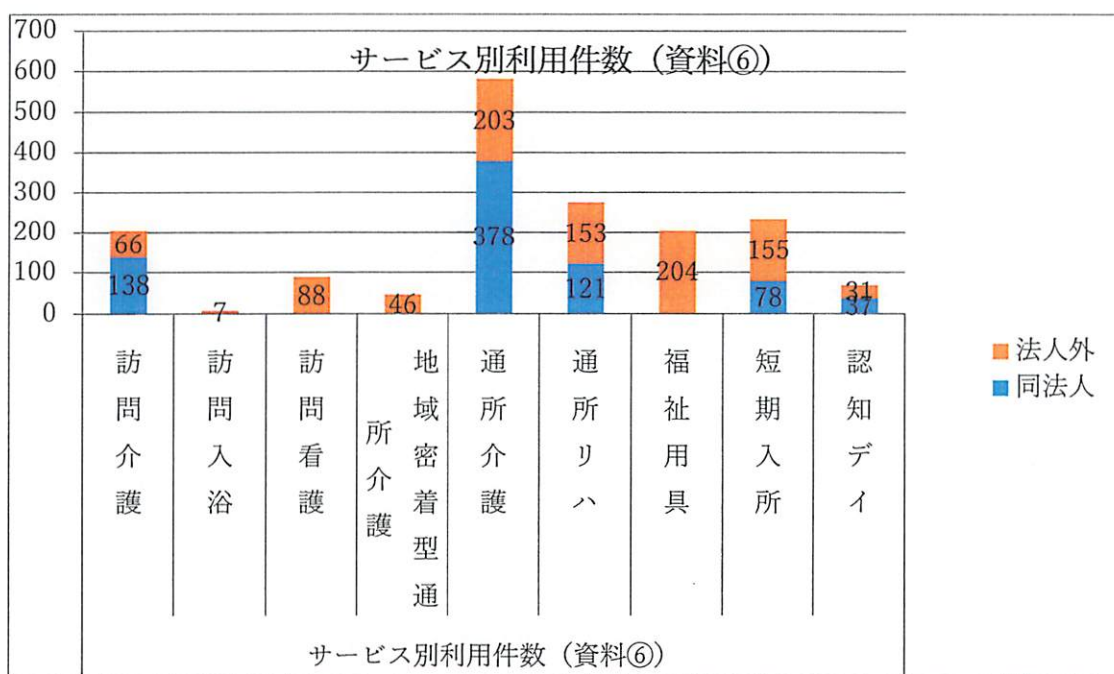
(平均要介護度は要支援以下を 0.375 として計算しています。)



・サービス別利用件数について (資料⑥⑦)

同一法人のサービス別利用件数については、一昨年度までは通所介護や訪問介護は伸びていましたが、今年度は、通所介護の利用者数の減少が顕著である。

同一法人ではないが、通所リハビリについては、協力病院の富田病院の通所リハビリが、増えてきており、同地域による通所サービスが競合していることも通所介護の利用者減少の理由の一つとして考えられる。



重点目標について

1、自立支援の理念においてケアマネジメントを実施する。

残存機能が最大限活用できるよう、アローチャートや課題整理総括表などのツールを用いて、専門的アセスメントによる能力把握と自立生活の阻害要因を把握し、要介護者・家族の生活課題（活動や参加）を明確にし、生活目標を引き出し、要介護者・家族が自己決定できるよう、情報提供や説明を行った。

要介護者・家族と介護・医療等の関係機関との間で情報や目的を共有し、自立支援に向けた計画作成に努めた。

また、サービス導入後の結果を評価し、関係者との情報共有や必要なプランの見直しを行った。

2、安定した収益、新規利用者数の確保に努める。

新型コロナウイルス感染症による利用控えや介護サービスの休止による影響もあってか、入院、入所、他界による解約者が多い反面、新規契約者も多かった。収益的には、要介護者が減少した分、減収に至った。

3、介護支援専門員としての資質の向上

感染対策上、みづま館との合同のアローチャート研修はできなかった。また外部研修においては、オンラインを活用したり、感染対策を図ったうえで、西圏域事業者事例検討会に参加し、資質の向上を図った。

今年度は、ターミナルケアの相談も増えており、感染対策の為、入院者の面会制限など理由等により、終末期を自宅で家族と過ごされたい意向が考えられる。

ターミナルケアについて、人生の最終段階の医療とケアの在り方について、本人の意思や推定意思を確認するため、本人もしくは家族と医療・介護関係者が繰り返し話し合いの場を設けながら、利用者が人生の最終段階を、どこで・誰とどのように過ごしたいのか、利用者の真の想い・・・を引き出す役割としての重要性を、事例を通じて学び直すことができた。

課題

居宅介護支援事業については、城島と三潞の2か所に拠点を置きながらサービス展開していますが、令和2年度の途中よりケアマネージャーの欠員から、特定事業所加算が算定できず、みづまケアプランは減収となりました。

平成30年度の介護報酬改定により、居宅介護支援事業所の責任者を介護支援専門員に限定し、介護支援専門員の人員も3名より4名以上が加算も手厚くするなど、国は事業所の大規模化を進めています。当事業所においても、ケアマネージャーが欠員すると大幅に減収する可能性もあり、統合化した場合、介護支援専門員が増員になることで、欠員による減収のリスクが減ることと、複数の介護支援専門員間で業務のカバーができることで個々の介護支援専門員の業務負担が軽減されることなど運営面や経営的にも効率的で安定しやすく、収益増も見込まれるため、将来的には居宅介護支援事業所の統合は必要かと思われます。

以上

令和 2 年度 事業報告書

特別養護老人ホームふれあいの園

1. 令和 2 年度の利用状況と実績について

年度入所者延べ日数について

要介護度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 2	208	248	240	248	248	213	217	224	248	248	211	169	2722
要介護 3	310	310	272	263	268	326	341	314	370	352	336	389	3851
要介護 4	545	585	510	559	533	498	484	459	547	539	490	537	6286
要介護 5	308	269	270	271	226	179	164	136	295	283	241	240	2882
計	1371	1412	1292	1341	1275	1216	1206	1133	1460	1422	1278	1335	15741
稼働率	91%	91%	86%	87%	82%	81%	78%	76%	94%	92%	91%	86%	86%
26 年度	1327	1401	1272	1397	1426	1316	1290	1205	1359	1351	1133	1206	15683
27 年度	1307	1331	1296	1364	1372	1359	1363	1329	1363	1354	1335	1417	16241
28 年度	1307	1314	1348	1349	1283	1295	1288	1250	1436	1467	1419	1485	16241
29 年度	1431	1491	1444	1442	1406	1377	1425	1383	1451	1422	1277	1361	16910
30 年度	1353	1414	1402	1474	1463	1358	1466	1434	1547	1507	1285	1419	17122
1 年度	1443	1481	1366	1432	1427	1410	1467	1422	1527	1493	1357	1472	17297



令和 2 年度の入所延べ日数は、15741 日、ベッド稼働率は、86%でした。2 年度は、久留米市より 1 名の措置入所利用があり、延べ 122 日受け入れを行いました。2 年度は 1 年度と比較し 1381 日減少しています。減少した要因として、新型コロナウイルス蔓延防止のため、病院や他施設等からの新規入所者の受入を止めたことが大きな要因となっております。

入所待機者の状況について

令和2年度の入退所状況は、新規入所者15名、退所者15名でした。待機者の状況においては、令和3年3月末現在で85名となっています。2年3月末は64名でしたので、21名増加しています。

行事について

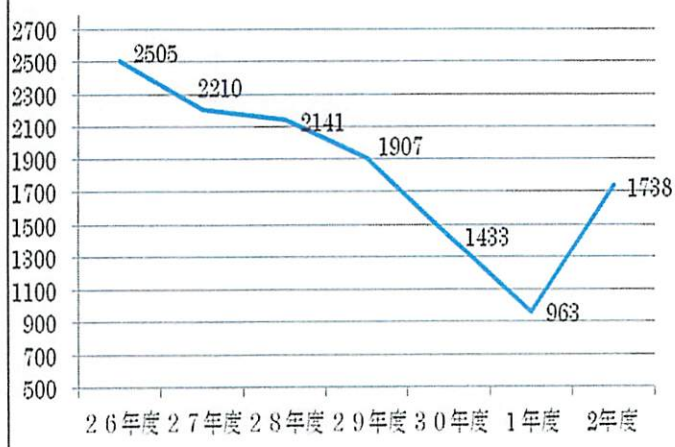
行事については、新型コロナウイルス感染症対策としてすべて中止としております。また移動販売については、アスタラビスタへ月2回FAX注文する方法へと変更しております。

入院者の状況について

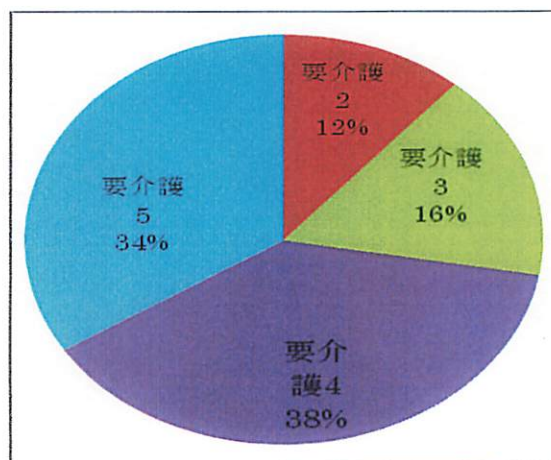
令和2年度入院延日数

要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	32	0	0	0	0	27	31	16	0	0	14	79	199
要介護3	20	23	28	62	73	13	0	16	1	20	14	14	284
要介護4	27	54	129	69	110	100	52	51	22	19	14	18	665
要介護5	22	60	30	14	22	61	105	104	33	27	39	73	590
計	101	137	187	145	205	201	188	187	56	66	81	184	1738
入院者数	7	8	8	10	10	13	8	8	5	7	6	10	100
平均入院 日数	14.4	17.1	23.4	14.5	20.5	15.5	23.5	23.4	11.2	9.4	13.5	18.4	17.4
26年度	184	134	221	139	118	173	291	291	186	182	256	330	2505
27年度	258	197	150	176	164	149	199	194	212	227	132	152	2210
28年度	222	244	151	232	271	204	237	209	100	81	83	107	2141
29年度	122	107	100	147	191	183	186	176	158	195	164	178	1907
30年度	162	184	146	147	118	164	95	79	34	62	139	141	1433
1年度	86	52	120	115	88	86	77	97	23	51	99	69	963
2年度	101	137	187	145	205	201	188	187	56	66	81	184	1738

入院者年間推移



令和1年度入院者介護度年間構成比



入院者の状況については、延べ入院日数 1738 日でした。1 年度と比較すると延べ入院日数は 775 日増加しております。

要介護度別では、要介護 4 の利用者がもっとも多く 38 %、要介護 5 の利用者と合わせると全体の 72 %を占めています。

2. 令和 2 年度事業計画の評価について

1. 介護サービスの質の均質化と効率化、介護職員の労働負担軽減について

31 年度においては、介護サービスの質の均質化の為、施設研修を計画しておりましたが、新型コロナウイルス蔓延防止のため外部研修は見送り、令和 2 年度は感染症に対する研修に力を入れ実施しました。

介護職員の労働負担軽減について、装着型のパワーアシストスーツ（マッスルスーツ）を試用してみました。結果として導入は見送りましたが、使用した職員の感想として、オムツ交換等中腰で作業する際に腰の負担が軽減した点が良かったとの報告があっております。導入を見送った経緯としましては、職員の体形で装着が出来る職員が少なく、費用に対する効果を考えた結果、導入には至りませんでした。令和 3 年度についても介護ロボットや福祉機器について積極的に導入検討していきます。

2. 感染症対策について

新型コロナウイルス対策について、職員は出勤時の体温測定実施と家族の面会については、タブレットを使用したオンライン面会を推奨し、緊急事態宣言時は面会を中止しております。利用者の処遇についても職員から感染者が出た場合に、利用者間で感染を広げない為、利用者同士が密接にならないように、食堂のテーブルを一人用のテーブルに交換し対応しています。また、発熱等の感染が疑われる症状がある利用者については、個室で対応するようにしています。

3. 収支の状況について

収入の部	2 年度目標数	2 年度実績	達成率
利用者延べ数	17,155 名	15,741 名	91%
総収入	189,469,976 円	184,753,319 円	97%

支出の部	予算額	実績額	執行率	人件費率
事業費支出	32,019,000 円	35,092,447 円	109%	67.9%
事務費支出	12,217,000 円	11,629,017 円	95%	

4. 今後の課題について

昨年に引き続き、研修、OJT による介護サービスの質の均質化を図ります。また、介護職員の労働負担軽減のため、福祉機器の検証を行い介護ロボットや福祉機器の導入を検討していきます。

設備の更新について、設立から 28 年経過しておりトイレや浴室など老朽化が進み清掃をしても取れない汚れやカビ等が目立ってきております。令和 2 年度は設備の更新について検討していきたいと思っております。

令和 2 年度 事業報告書

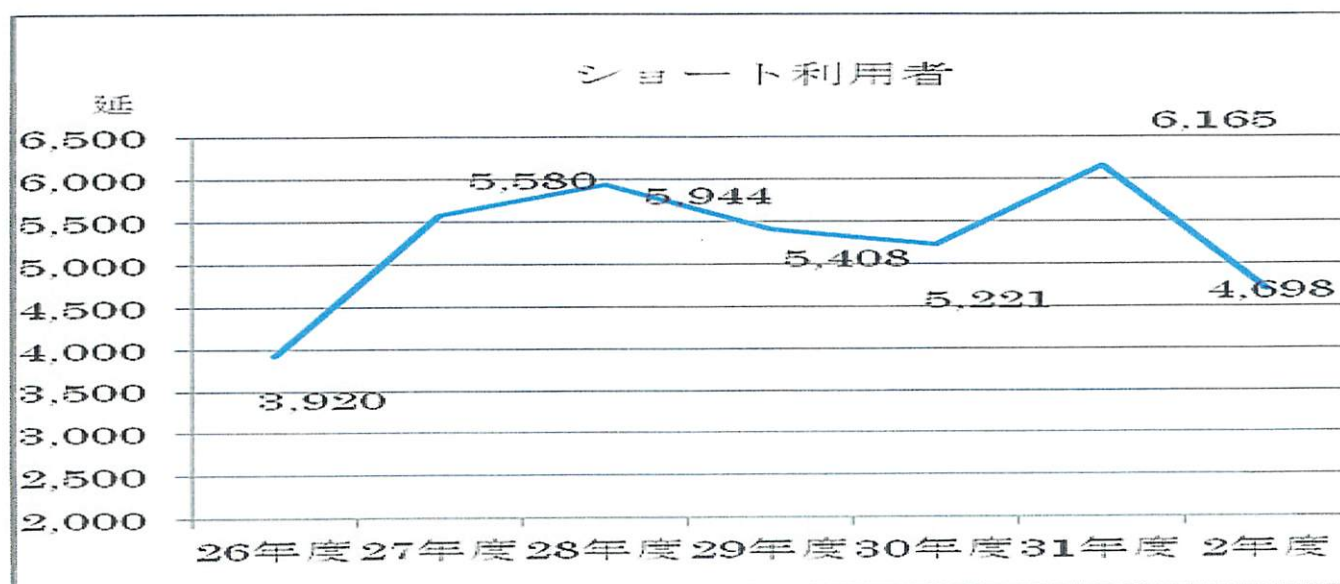
特別養護老人ホームふれあいの園

短期入所生活介護

1. ショート利用者の延べ日数について

令和 2 年度利用延べ日数

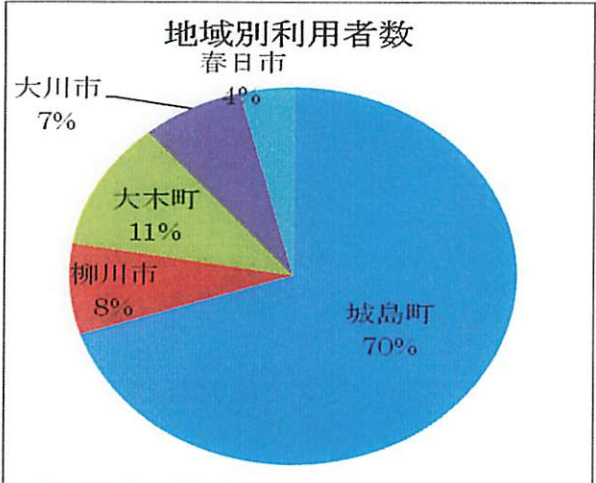
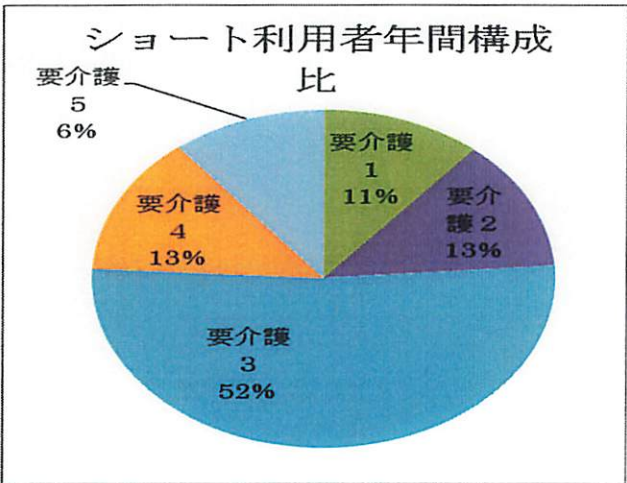
介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	60	62	60	64	33	35	33	32	33	39	36	39	526
要介護 2	89	92	89	72	31	39	31	30	31	31	28	31	594
要介護 3	268	246	217	192	271	282	224	194	141	146	134	138	2453
要介護 4	62	55	16	78	92	94	92	73	40	18	0	0	620
要介護 5	0	3	29	10	36	37	106	116	16	29	59	64	505
合計	479	458	411	416	463	487	486	445	261	263	257	272	4698
稼働率	80%	74%	66%	67%	75%	81%	78%	74%	42%	42%	46%	44%	64%
利用者数	18	16	16	20	19	26	20	19	17	13	12	11	
長期利用者	18	16	16	15	15	15	15	15	14	8	9	8	
26 年度	460	382	382	351	315	301	260	271	240	221	340	397	3,920
27 年度	434	435	508	537	542	446	380	483	465	405	452	493	5,580
28 年度	453	445	376	458	603	582	561	540	501	495	445	485	5,944
29 年度	466	443	422	417	495	496	513	467	364	474	327	524	5,408
30 年度	428	526	434	317	333	470	467	454	439	471	469	413	5,221
1 年度	380	486	466	505	545	554	540	527	581	526	499	556	6,165
2 年度	479	458	411	416	463	487	486	445	261	263	257	272	4,698



令和2年度の延べ利用日数は4698日、ベッド稼働率は64%でした。昨年度と比較すると、利用日数は1467日減少、ベッド稼働率は20%減少しています。減少した要因として、新型コロナウイルス感染防止のため、長期ショートのためのみの受入を行い、新規利用者については、自事業所のみの利用としたことが原因となっております。

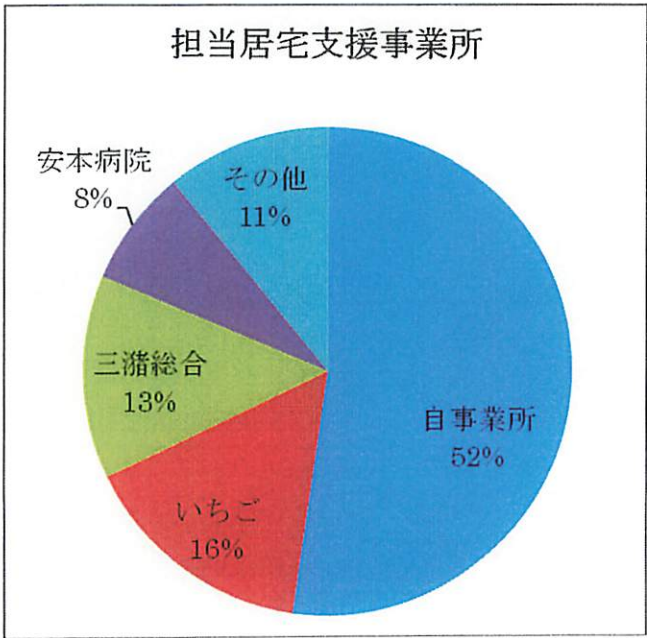
久留米市から委託を受けております生活支援ショートステイ利用については、令和1年度の利用はありませんでした。

利用者の状況について



介護度別では要介護3の利用者が最も多く2,453日(52%)、重度者(要介護4、5)においては、1,125日(19%)の利用日数となっています。昨年度と比較すると、要介護3の利用日数は338日増加しましたが、重度者の利用日数は496日、軽度者(要介護1、2)は784日減少しております。

利用地域においては、城島町3,285日(70%)、大木町520日(11%)、柳川市365日(8%)、大川市346日(7%)、春日市182日(4%)となっており、城島町で70%を占めています。昨年度と比較すると、城島町は954日増加しておりますが、大木町で1,214日、大川市で610日の減少となっております。



担当の居宅支援事業所については、自事業所(ふれあいの園ケアプランサービス、みづまケアプランサービス)の利用日数は2,457日(52%)、他事業所の利用日数2,241日(48%)でした。昨年度と比較すると、自事業所205日増加、他事業所1,672日減少しております。

2. 令和2年度事業計画の評価について

1. 介護サービスの質の均質化と効率化、介護職員の労働負担軽減について

2年度においては、介護サービスの質の均質化の為、施設研修を計画しておりましたが、新型コロナウイルス蔓延防止のため外部研修は見送り、令和2年度は感染症に対する研修に力を入れ実施しました。

介護職員の労働負担軽減について、装着型のパワーアシストスーツ（マッスルスーツ）を試用してみました。結果として導入は見送りましたが、使用した職員の感想として、オムツ交換等中腰で作業する際に腰の負担が軽減した点が良かったとの報告があっております。導入を見送った経緯としましては、職員の体形で装着が出来る職員が少なく、費用に対する効果を考えた結果、導入には至りませんでした。令和3年度についても介護ロボットや福祉機器について積極的に導入検討していきます。

2. 感染症対策について

新型コロナウイルス対策について、職員は出勤時の体温測定実施と家族の面会については、タブレットを使用したオンライン面会を推奨し、緊急事態宣言時は面会を中止しております。利用者の処遇についても職員から感染者が出た場合に、利用者間で感染を広げない為、利用者同士が密接にならないように、食堂のテーブルを一人用のテーブルに交換し対応しています。また、発熱等の感染が疑われる症状がある利用者については、個室で対応するようにしています。

3. 収支の状況について

収入の部	2年度目標数	2年度実績	達成率
利用者延べ数	5,840名	4,565名	78%
総収入	66,950,352円	50,606,572円	75%

支出の部	予算額	実績額	執行率	人件費率
事業費支出	10,261,000円	10,509,669円	102%	63%
事務費支出	3,293,000円	2,772,582円	84%	

4. 今後の課題について

昨年に引き続き、研修、OJTによる介護サービスの質の均質化を図ります。また、介護職員の労働負担軽減のため、福祉機器の検証を行い介護ロボットや福祉機器の導入を検討していきます。

設備の更新について、設立から28年経過しておりトイレや浴室など老朽化が進み清掃をしても取れない汚れやカビ等が目立ってきております。令和2年度は設備の更新について検討していきたいと思っております。

令和2年度 ふれあいの園デイサービスセンター 事業報告書

I、年間稼働日数

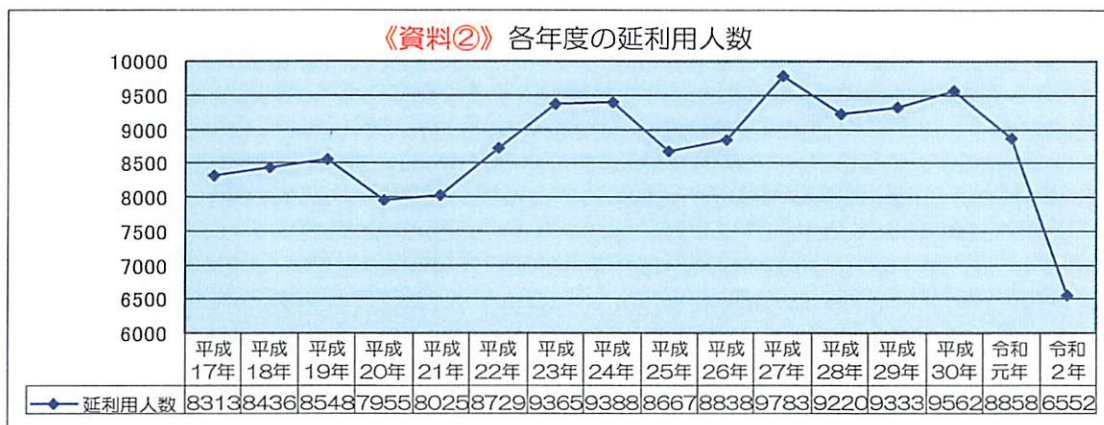
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
稼働日数	362 日	361 日	315 日

・日曜日の営業は4月に1営業日のみ（コロナウイルス感染症による営業自粛及びショートステイや他事業所への切り替えにより日曜利用のお客様が激減した為）となっています。
また、9月に台風の影響により1営業日の臨時休業、1月に元日の休業がありました。

II、サービスの利用状況について

《資料①》

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
年間利用者延べ人数	9562 人	8858 人	6552 人
平日の平均利用者数	29.4 人	27.2 人	21.5 人
日曜日の平均利用者数	8.4 人	7.1 人	0.1 人



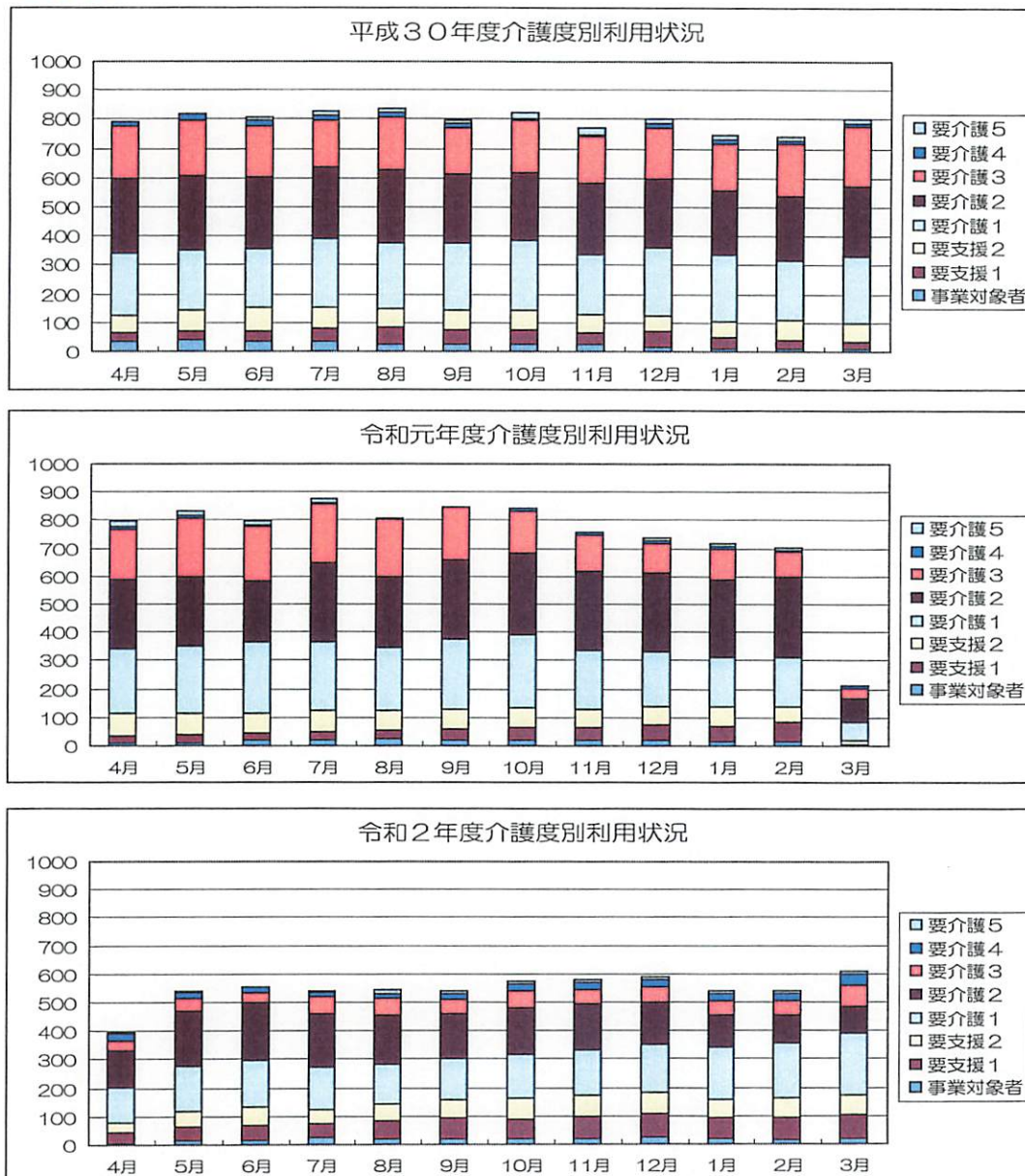
- ・令和2年度の年間の延べ利用数は、前年度比-26.0%。コロナウイルス感染症の感染予防対策として令和2年3月から令和2年6月までサービス提供体制を縮小したことが反映されています。(資料①・②)
- ・事業所の利用定員を[平日／介護30名、総合事業10名・日曜／介護15名]として、ひと月の稼働率は平均49.7%となっています。

III、サービス利用者の状況について

次に、サービス利用をしている利用者の状態像についてですが、平成30年度から令和2年度までの月ごとの利用数及び要支援・要介護状態別に示したグラフを掲載しています(資料③)。令和2年3月のコロナウイルスによる事業への影響が始まって以降、要介護1・2の層の減少が顕著であることが伺えます。反対に、コロナ禍の影響により地域のサロンな

どが休止となった影響があり、『通いの場』を求めて要支援1～2の方の総合事業での利用相談が増えている傾向にあります。

《資料③》



IV、基本サービス報酬と加算について

①基本サービス報酬について（資料④介護度別各年度の基本報酬比較）

前年度と比較して、明らかに伸びているのは総合事業の要支援の方の報酬です。介護の方については、利用数の大部分を占める要介護1・2の利用が大きく減少したことから、報酬も比例して大きく減少しています。

《資料④介護度別各年度の基本報酬比較》

	事業対象者		備 考
	利用数	報酬	
平成30年度	283	499,550	
令和元年度	192	346,560	前年度比－30.6%（下半期、消費増税により単価UP）
令和2年度	226	372,860	前年度比＋7.6%
	要支援1		備 考
	利用数	報酬	
平成30年度	458	956,890	
令和元年度	449	810,830	前年度比－15.3%（下半期、消費増税により単価UP）
令和2年度	792	1,424,820	前年度比＋75.7%
	要支援2		備 考
	利用数	報酬	
平成30年度	807	3,011,200	
令和元年度	770	2,901,160	前年度比－3.7%（下半期、消費増税により単価UP）
令和2年度	759	2,818,270	前年度比－2.8%
	要介護1		備 考
	利用数	報酬	
平成30年度	2,689	15,380,100	
令和元年度	2,503	14,198,250	前年度比－ 7.7%（下半期、消費増税により単価UP）
令和2年度	1,951	11,105,680	前年度比－21.8%
	要介護2		備 考
	利用数	報酬	
平成30年度	2,904	19,625,020	
令和元年度	3,038	20,345,360	前年度比＋ 3.7%（下半期、消費増税により単価UP）
令和2年度	1,819	11,956,300	前年度比－41.2%
	要介護3		備 考
	利用数	報酬	
平成30年度	2,079	15,750,040	
令和元年度	1,781	13,331,900	前年度比－15.3%（下半期、消費増税により単価UP）
令和2年度	619	4,748,820	前年度比－64.4%
	要介護4		備 考
	利用数	報酬	
平成30年度	169	1,488,120	
令和元年度	96	803,850	前年度比－ 46.0%（下半期、消費増税により単価UP）
令和2年度	288	2,456,900	前年度比＋305.6%
	要介護5		備 考
	利用数	報酬	
平成30年度	145	1,432,600	
令和元年度	93	739,000	前年度比－48.4%（下半期、消費増税により単価UP）
令和2年度	98	897,510	前年度比＋21.4%
平成30年度	58,143,520		基本報酬のみの合計
令和元年度	53,476,910		基本報酬のみの合計（前年度比－8%）
令和2年度	35,781,160		基本報酬のみの合計（前年度比－33%）

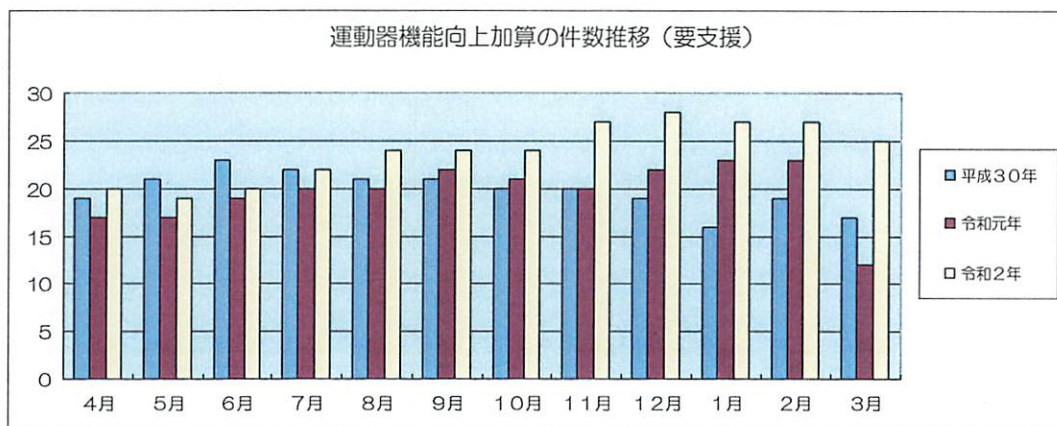
②入浴介助加算

平成 30 年・・・5952 回（平成 29 年度より-0.7%）500 円×5952 回＝2,976,000 円

令和 元年・・・5407 回（平成 30 年度より-9.1%）500 円×5407 回＝2,703,500 円

令和 2 年・・・3491 回（令和元年度より-35.4%）500 円×3491 回＝1,745,500 円

③運動器機能向上加算（事業対象者、要支援 1・2）



運動器機能向上加算

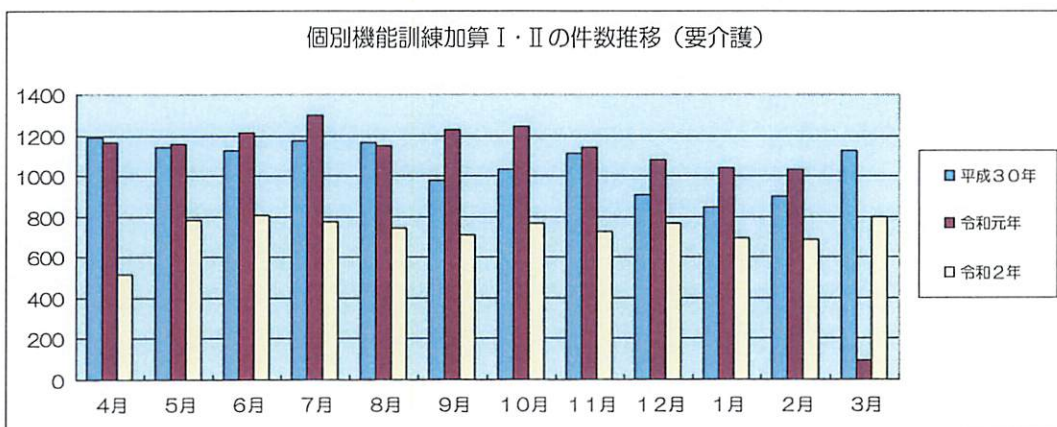
平成 30 年・・・238 回（平成 29 年度より+13.3%）2,250 円×238 回＝535,500 円

令和 元年・・・236 回（平成 30 年度より+0.8%）2,250 円×236 回＝531,000 円

令和 2 年・・・287 回（令和 元年度より+21.6%）2,250 円×287 回＝645,750 円

総合事業の利用数増加と比例して、運動器機能向上加算の算定数も伸びています。

④個別機能訓練加算



個別機能訓練ⅠとⅡの総数を合算すると

平成 30 年・・・12,706 回（平成 29 年度より-2.6%）

令和 元年・・・12,846 回（平成 30 年度より+1.1%）

令和 2 年・・・8,772 回（令和元年度より-31.7%）

令和 2 年度

【個別機能訓練加算Ⅰ】 460 円×4380 回＝2,014,800 円

【個別機能訓練加算Ⅱ】 560 円×4392 回＝2,459,520 円

利用数の減少に比例して個別機能訓練の算定数も減少しています。

平成 30 年度から運動器機能向上や個別機能訓練の外部連携への評価として、生活機能向上連携加算Ⅱ（100 単位/月）を算定可能になりました。

【生活機能向上連携加算Ⅱ】 1,000 円×731 回＝731,000 円

⑤送迎減算

	減算数		
	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
要介護 1	183	160	270
要介護 2	61	63	50
要介護 3	140	167	74
要介護 4	2	0	1
要介護 5	251	102	2
合計	637	492	397

通所利用時、送迎サービスを利用しなかった場合（家族送迎など）、片道－47 単位（470 円）が基本サービス費から減算されるものです。

470 円×397 回＝186,590 円 令和 2 年度の基本サービスの報酬から減算されています。

⑥栄養スクリーニング加算

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
年間合計算定数	130	173	141

栄養状態に関する情報を定期的に支援担当者へ報告した場合に算定できる加算です。

令和 2 年度 50 円×141 回＝7,050 円

⑦ADL 維持加算

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
年間合計算定数	—	710	483

利用者（要介護）の ADL を評価・報告し一定の基準に達していれば算定できる加算です。

令和 2 年度 60 円×483 回＝28,980 円

V、目標の収入と実績について

収 入			
科目	予算額	実績額	達成率
介護保険事業収入	72,370,000	49,833,554	68.8%

支 出			
科目	予算額	実績額	達成率
人件費支出	56,990,000	55,939,471	98.1%
事業費支出	8,592,000	8,660,628	100.7%
事務費支出	4,317,000	3,706,551	85.8%

(人件費率 112.2%)

VI、利用登録の状況について

① 新規利用の経路

みづま居宅	城島居宅	包括	その他居宅	合計
0 件	6 件	11 件	4 件	21 件

②利用終了の事由

他界	特養 入所	長期 入院	長期 SS	みづま 館へ	他施設 入所	本人 都合	他事業 所へ	合計
7 件	0 件	4 件	5 件	0 件	8 件	4 件	1 件	29 件

新規利用の相談は 21 件と少なくなっており(コロナ禍及び 3 月自粛の影響あり)、その中でも地域包括支援センターを介した総合事業の利用相談が半数ほどを占めています。利用中止の事由として他界はそれほど多くありませんでした。感染症の影響で通所サービスを提供できない時期があったなど、在宅での介護生活・支援体制が脆弱になったことから、入所型の施設への移行や長期入院から長期 SS 等へ移行するケースが多い経過となっています。

VII、令和 2 年度の取り組みについての評価

◎令和 2 年度の重点目標として以下の 4 点を挙げていました。

i.利用登録者数の増加

・上記の通り、感染症やその対策による影響により利用登録者数の増加には至っておらず、介護認定の方の減少、総合事業の方の増加、全体の利用登録者数が減少している状況です。今回、広報及び新規のお客様獲得の為、お盆の時期に合わせて新聞折込を利用した広報チラシの配布を実施しており『チラシを見て』といった問い合わせが 6 件ありました。また、サービス内容や空き状況を記載したチラシを作成し、城島・三潞地域の居宅介護支援事業所に対して毎月配布しリアルタイムの情報発信に努めています。

ii,機能訓練についての取り組み強化

- ・従前から実施している総合事業のお客様への『身体機能測定』を、目的意識をもって取り組むことが出来る『要介護のお客様（今回は要介護1の方）』へも実施しました。歩行の速度や立ち座り動作による下肢の持久力などを継続して測定・記録することで、身体機能の維持や向上などの経過を数値化し図形表記にして可視化することで、状況を理解しやすくする取り組みです。自身の身体状況が把握・理解しやすくなることで、また次も頑張ろうという意欲へ繋がっているお客様もおられます。

iii,人材の育成とスキルアップ

- ・今年度の職員研修として『認知症』『虐待』の2テーマを予定していましたが、感染症対策が影響し『感染症予防』『ガウンテクニック』『介護職員の接遇・マナー』の3テーマへと変更し実施しました。外部研修については感染症対策にて参加を見送っています。

VIII、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のための措置について

令和2年3月のサービス提供の一時休止を経て、令和2年4月からは段階的に短時間のサービス提供を開始し、4月中旬には総合事業を含むほぼ全員の利用者が、短時間2部制（午前・午後に分かれ）でのサービス提供を実施。5月後半からは介護の方は昼食後まで、総合事業の方は引き続き午後の短時間サービスを実施。6月中旬まで時間短縮サービスによる営業を続け、6月下旬より介護及び総合事業とも通常のサービス提供を全面的に再開しています。

設備面の整備として、洗面台水洗の温水化（ガス給湯工事）の実施により、負担なくしっかりと手洗いができるように改善しました。また、向かい合って席に着いたり食事をしたりする環境を避けるために『一人用テーブル』を新たに導入しました。横並びに席を配置でき、前後左右とも適度な距離を保つことができます。任意の組み合わせができる為、自由度が高い席の配置が可能になりました。

IX、令和2年度行事の実施状況

	行 事		行 事
令和2年4月	・誕生会	令和2年10月	・バスハイク（コスモス） ・レクリエーション大会 ・誕生会
令和2年5月	・母の日 ・誕生会	令和2年11月	・バスハイク（七木地蔵） ・ショッピング ・誕生会
令和2年6月	・父の日 ・誕生会	令和2年12月	・クリスマス忘年会 ・ショッピング ・誕生会
令和2年7月	・七夕（壁面飾り作り） ・誕生会 ・ショッピング	令和3年1月	・ほっけんぎょう ・誕生会
令和2年8月	・夏祭り（デイ室内） ・誕生会 ・ショッピング	令和3年2月	・節分 ・誕生会
令和2年9月	・敬老会 ・ショッピング ・誕生会	令和3年3月	・ひなまつり（雛飾り作り） ・誕生会 ・桜見（園内で鑑賞のみ）

- ・外出行事の一部中止
- ・緊急事態宣言など蔓延時はショッピング（アスタラビスタに限定）を中止
- ・シアターデイ（暗室での映画鑑賞会）を全面中止
- ・カラオケなど歌を主とする催しやレクリエーションは中止

ア

令和2年度 ケアハウス ふれあい荘

事業報告書

1. 概要

入居者の高齢化に伴い、要介護認定を受ける入居者は増加傾向にあります。要支援・要介護状態になっても、外部サービスや特定施設入居者生活介護サービスなどを利用しながら、ケアハウスでの生活を継続できるよう支援してきました。

令和2年度は、4名の退居（特養や他施設への入所、入院、死去）と、それに伴い新規6名の入居がありました。数年ぶりに、一組の夫婦の入居がありましたが、満床に至る事は出来ませんでした。また、入居が決定していましたが、コロナの影響（面会、外出制限）で入居をキャンセルされた方も数名おられました。

職員の負担軽減を図るために、業務の見直しや改善、他部署からの応援や協力要請を行いました。

レクリエーションでは、コロナの感染対策により予定していた行事が思うように実施出来ませんでした。脳トレに関しては、利用者人数も増え定着しており毎回楽しみにされています。

2. 2年度の利用状況と実績

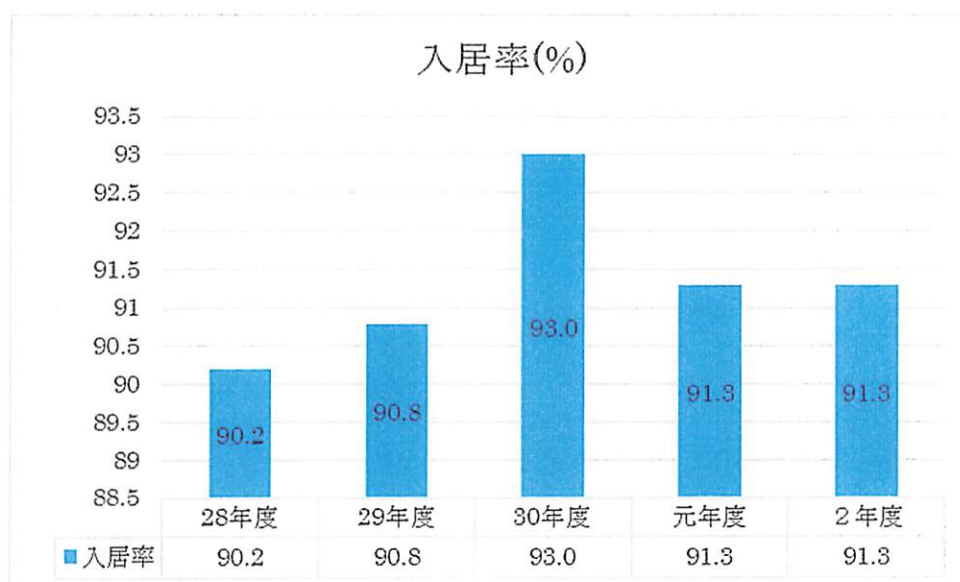
・令和2年度 年間入居率 = 91.3%

一般・・・184名(平均15.3名) 特定・・・145名(平均12.1名) 合計・・・329名(平均27.4名)

28年度・・・(27名) 29年度・・・(27.2名) 30年度・・・(27.2名) 元年度・・・(27.4名)

※年間入居率は、入居者が満員になった状態が1年間続いた時の人数(30名×12か月＝360名)を100%とします。

入居者平均年齢 平均年齢 86.3歳(女性 86.4歳 男性 86.1歳)



・昨年度(329名)と入居者数は変わりありませんでした。

申し込み、入居申し込み状況 (11 件)

月	4 月～6 月	7 月～9 月	10 月～12 月	1 月～3 月
人数	3 名	2 名	3 名	3 名

前年度（15 件）に比べ多少減少しましたが入居問合せ件数（居宅事業者、病院、ホームページ観覧等）は増加致しました。

3. 事業実施計画に対しての具体的な評価

① 入居者の安心・安全な生活の支援及び職員との交流

- ・入居者が事故なく安全に移動、移乗が出来るように、福祉用具（立ちアップ）やトイレの手すりの設置を行いました。入居者からは、移動や立ち上がりが楽に出来るようになったとの声が聞かれました。
- ・個人で楽しめる器具では、マッサージチェア、足踏み器、スロットを設置し個人個人で楽しんで頂けました。
- ・レクリエーションでは、密をさけ定期的にゲーム大会や、おやつ作り等の行事の開催を行いましたが、コロナの状況により思うように行事の実施が出来ませんでした。課題としては、コロナ禍で出来る行事の実施方法や企画の検討が必要と思われます。
- ・接遇面に対しては、入居者への言葉使いや対応について指摘があり、接遇研修を実施し職員の質の向上に努めました。

② 入居者 30 名の確保とケアプランの見直し、他職種連携について

- ・入居者獲得の対応として、ホームページや空き情報のお知らせ（居宅事業所、病院、市役所）パンフレットの作成を行い、配布、PR 活動を行う事で入居の問合せ件数は増加しました。二人部屋入居（一組）もありましたが、30 名の入居に至る事は出来ませんでした。主な原因としては、入居が決まっていたがコロナの影響（面会、外出、外泊制限あり自由に出来ないとの理由）で入居をキャンセルされた方も数名おられました。また、光通信の環境が整わず、ネット環境が未整備なので入居希望者にとって施設選定に不利となっています。
- ・特定者のプランにつきましては、本人、家族の要望を取り入れ、その人らしく生活ができるよう支援致しました。入居者の状況により、介護保険認定の手続きやプランの見直しを行い、介護が適切に受けられるよう実施致しました。
- ・他職種連携では、居宅事業者や病院、施設の関係者との情報共有や連携を図る事により、入退居、入退院、介護サービスの提供がスムーズに行なえました。

4. 収支状況

収入	2 年度目標数	2 年度実績	達成率
利用者延べ人数	360 名	329 名	91.3%
総収入	65,871,000	65,144,770	99.8%

支出	予算額	実績額	執行率	人件費比率	職員増減数
事業費支出	13,498,000 円	9,570,477 円	71%	46,786,816 円	増 2 名
事務費支出	5,119,000 円	5,525,507 円	108%	71.8%	減 0 名

- ・予算に対して実績の大幅な支出がありました。(BS 共聴設備工事、BS アンテナ工事、入居者用洗面台交換、居室内、公共場所換気扇交換、介護用品購入等部品交換や設置)
- ・一時的な職員不足の時には、他部署（支援室）より応援要請の依頼を行い協力体制を得る事ができました。
- ・R2 年 11 月（介護員）R3 年 1 月（看護師）各 1 名ずつ入職され介護負担や業務負担の軽減を図る事が出来ました。

現在の職員数・・・常勤 9 名（相談員 1 名、看護師 2 名、介護員 6 名）

パート 1 名（掃除のみ）4 時間

5.運営

1-1・・・日常生活相談（相談、苦情）

（相談件数 2 件）

- ・入居者同士の折り合いが良くないので、食事時間を変更してほしいとの相談がありました。対応として食事時間をずらす事で解決致しました・
- ・入居希望の家族より担当 CM からの連絡をしないでほしい、連絡する際は、ケアハウスの職員からしてほしいとの相談がありました。ケアハウスと CM からの質問内容（介護サービス利用等）が異なる事を説明しました。その後、入居はキャンセルとなりました（入居希望者の容体悪化）

（苦情件数 5 件）

- ・一人の入居者に対し、マッサージ機や新聞を独占される事が多いとの苦情でした。対応としては、副施設長へ相談し貼り紙を貼る、居眠りをされていたら声掛けして対応する等の対応をしました。その後は、改善致しました。

1-2・・・事故報告

（事故件数…47 件）

- ・入居者の高齢化に伴う、身体機能低下による事故が発生しております。
- ・居室内での移動時の転倒事故が多発しました。
- ・骨折事故もあり、コールを事前に押す事や、不安な場合には職員へ相談してもらう事で、事故を防げた事例もあると思われます。

（事故内容）

- ・転倒 36 件（打撲 20 件、創傷 1 件、骨折 3 件）
- ・外傷 6 件 ・火傷 2 件 ・転落 1 件 ・打撲 1 件 ・内出血 1 件

（対策について）

- ・3 カ月に 1 度、事故報告検討会を行い、事故があればその都度、検討会を開催し個別ごとに事故への対策・対応・リスクの早期発見が出来るようにしました。主な対応としては、行動に不安がある場合にはコールを事前に押してもらうよう説明、コールが押しやすい場所への設置、その他、移動時には手すりやシルバーカーの使用、日頃の声かけ、見守り、付添いを行い居室内の環境整備、を行い事故防止に取り組みました。入居者自身、本人の身体機能と向き合い、過信せず行動する事を説明し、危険要素を発見する事で事故防止に繋がっていきます。

一般入居者…19 件

月	4 月～6 月	7 月～9 月	10 月～12 月	1 月～3 月
事故件数	11 件	5 件	2 件	1 件

特定入居者…28 件

月	4 月～6 月	7 月～9 月	10 月～12 月	1 月～3 月
事故件数	2 件	11 件	7 件	8 件

1-3・・・職員の資質向上

職員の知識や介護技術の向上を図るため、以下の研修に参加致しました。

- ・ 高齢者虐待防止研修
- ・ 身体拘束（内部研修 年 4 回） ・ 感染症（内部研修、年に 4 回）
- ・ 接遇（内部研修 随時） ・ コロナ感染対策（随時）
- ・ リスクマネジメント（内部研修 年 2 回）

＊外部研修を予定していましたが、コロナの影響でキャンセルとなり参加出来ませんでした。

1-4・・・行事について

- 4 月 ふれあいの集い（ミニお花見・散策）
 - 5 月 ふれあいの集い（バーベキュー）
 - 6 月 ふれあいの集い（脳トレ・おやつ）
 - 7 月 七夕祭（ところてん）
 - 8 月 ふれあいの集い（カキ氷）
 - 9 月 敬老会・おやつ・入居者健診
 - 10 月 ふれあいの集い（百均ショッピング）
 - 12 月 クリスマス忘年会
 - 1 月 ほっけんぎょう（合同）ゲーム大会（双六）
 - 2 月 節分
 - 3 月 ふれあいの集い（ミニお花見）
- その他行事・・・誕生会、散髪、ショッピング、

<新型コロナウイルス感染対策について>

・ 今年も新型コロナウイルスの流行に伴い、感染症対策を行いました。対策としては、入居者の外部との接触を避けるために、面会、外出（散歩、病院、散髪以外）外泊の制限を行い外出時には、職員、入居者はマスク、手洗い、消毒の徹底、毎日の検温、館内消毒、ショッピングの代行、食事提供の工夫（2 班に分け対面にならないよう 2 人掛けで仕切り版を設置し食事は事前にセットし提供）を行いました。入居者のストレス軽減の為に、体操やレクリエーションを行いソーシャルディスタンスを保ちながら実施しました。また、定期的な感染症の研修や対策に取り組みしました。

令和2年度 特定施設入居者生活介護

事業報告書

1. 概要

令和2年度も「明るく、楽しく、安心・安全に過ごしましょう」といったテーマを掲げ、職員一同業務に取り組んで参りました。入居者は安心してケアハウスでの生活を送られています。特定入居者の介護度が重度化し、介護負担が増加しているにも関わらず、職員不足といった状況が慢性化しています。業務の見直し、改善を行う事により、職員の負担軽減を図るよう努めました。

2. 2年度の利用状況と実績

収支報告 (介護保険事業収入)

	予算	実績	達成率
元年度	23.223.000	20.112.732	87%
2年度	22.610.000	22.004.438	97.3%

・前年度（元年）と比較すると介護報酬の増加が見られました。理由としては、重度の要介護の利用が増えられた為と思われます。

特定利用者の介護度、延べ人数 (元年・2年度比較)

介護度	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	合計 (名)
元年度	31	17	19	58	17	6	148
2年度	13	17	53	29	20	13	145

2-1・・特定施設入居者生活介護利用状況

入浴・排泄等の身体介護では、ケアプランに基づく個別対応・計画・評価により適切なサービスの提供が行えるよう取り組んで参りました。また、入居者が高齢になっても安心・安全に生活できるよう、看護師を中心に心身状態の把握を行い、職員間の情報共有及び家族、関係機関との連携を行い適切な支援に繋げて行きました。

2-2・・環境整備

入居者の高齢による下肢筋力（体力）低下により、居室での転倒が増加傾向にありました。そのため、転倒の危険性がある方には、携帯用呼び出しボタンを携帯して頂き、安心して生活ができる環境を提供しました。また、施設の老朽化に伴い居室の換気扇、エアコン（5台）交換、洗面台取替え（1台）工事を行いました。また浴室には滑り止めマット、クイックバーを使用し事故防止に努めました。緊急時の対応として、毎月入居者居室内のコール点検を行い、緊急時に備えて作動出来るように確認を行いました。

2-3・・特定施設介護サービス計画

- ・介護計画の作成については、入居者の生活状況、身体機能、精神面から評価を行い、入居者家族の意見を含め、担当者会議を開催しました。
- ・介護サービス計画については、身体状況・精神状況の変化時、または介護保険の更新時期に見直しを行いました。

<今後の課題>

- ① 入居者の安全・安心な生活の支援、及び不利のない入居者への対応
 - ・悩みや訴えを気軽に相談できる関係性を築き、日常的な会話や傾聴を行う事により、信頼関係を更に深めて行く必要があります。
 - ・職員の質・サービスの向上を図るため研修の実施を増やし、職員の意識を高めていきます。
 - ・環境整備や職員による注意喚起を促し、事故防止に努めます。
 - ・入居者にとってどのような支援や援助方法が適切であるかを見極め、職員が協力し合い問題解決に取り組んでいきます。
- ② 多彩なレクリエーションの実施、継続
 - ・感染対策を前提に、多くの人が参加できる行事、入居者同士が楽しめる、娯楽用品の設置、集える環境作りを提供します。
 - ・介護予防や体力増進、健康維持が保てるレクリエーションの実施を行います。
- ③ 他職種連携のとれた体制作り
 - ・他職種との連携を図り、本人にとってより良いサービスの提供、支援、実施を行うと共に入居者がスムーズにサービスが受けられる体制作りを目指します。
- ④ 入居者獲得と業務の効率化・負担軽減
 - ・業務の効率化、負担軽減を行うために、安定した職員の確保、入居者が自分で出来る所を増やし自立に向けた支援を行う事で負担軽減を図っていきます。
 - ・特定利用の重度化が進んでいる為、その方に適した施設への移動や一般入居の受け入れを優先する事で、介護負担の軽減に繋がるのではないかと思います。

令和 2 年度事業報告

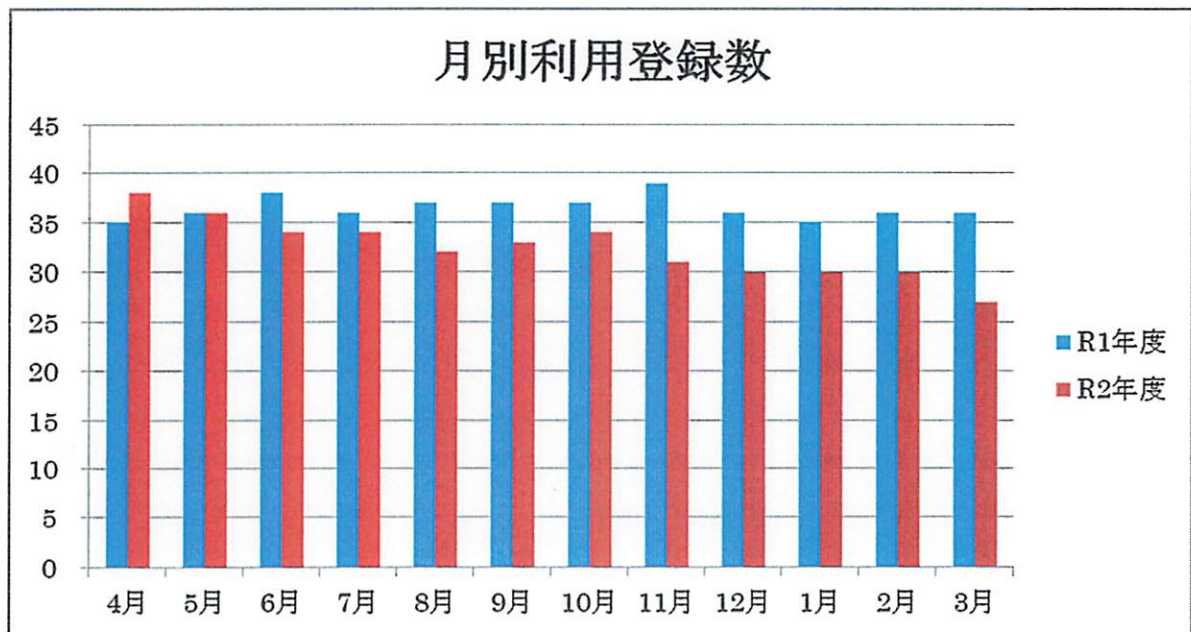
ふれあいの園ホームヘルプ事業

介護保険において、介護が必要となられた利用者に対し、可能な限りその居宅において、有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことが出来るよう、居宅サービス支援計画をもとに訪問介護計画を作成し、身体介護、生活援助、総合事業のサービスを提供致しました。

①令和 2 年度の利用状況と実績

今年度も空き状況を居宅支援事業所へ配布等行いましたが利用登録数が伸びず昨年度より月平均で 4 名減となりました。

要介護者につきましては、R2 年度 10 名の新規利用がありました。



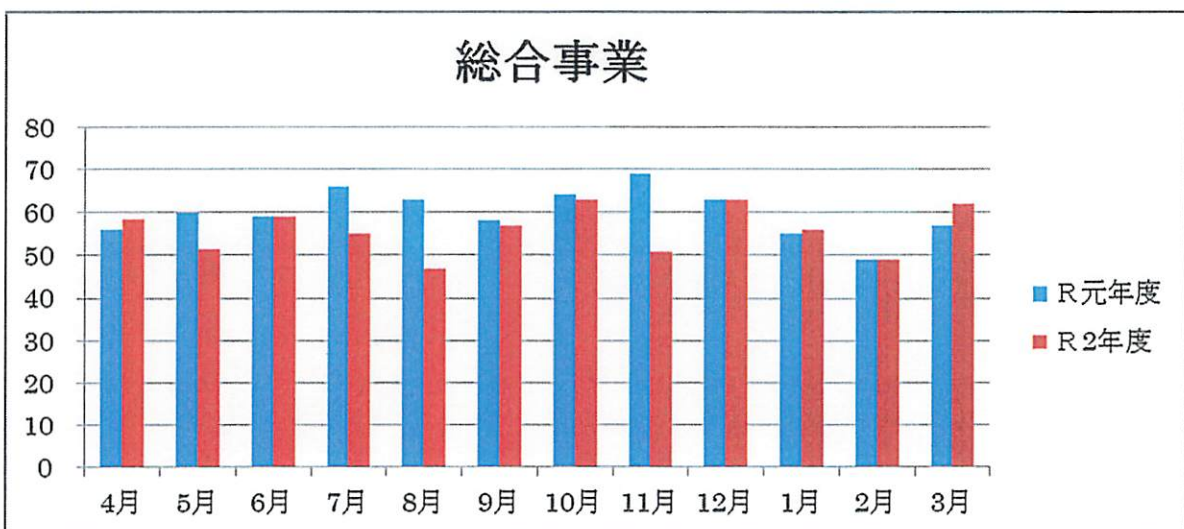
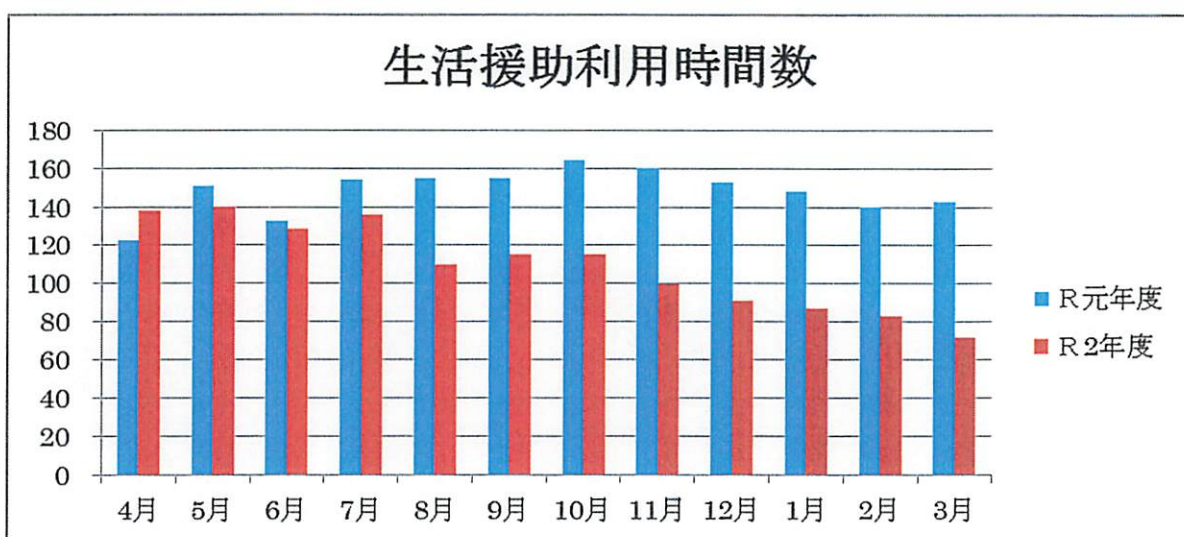
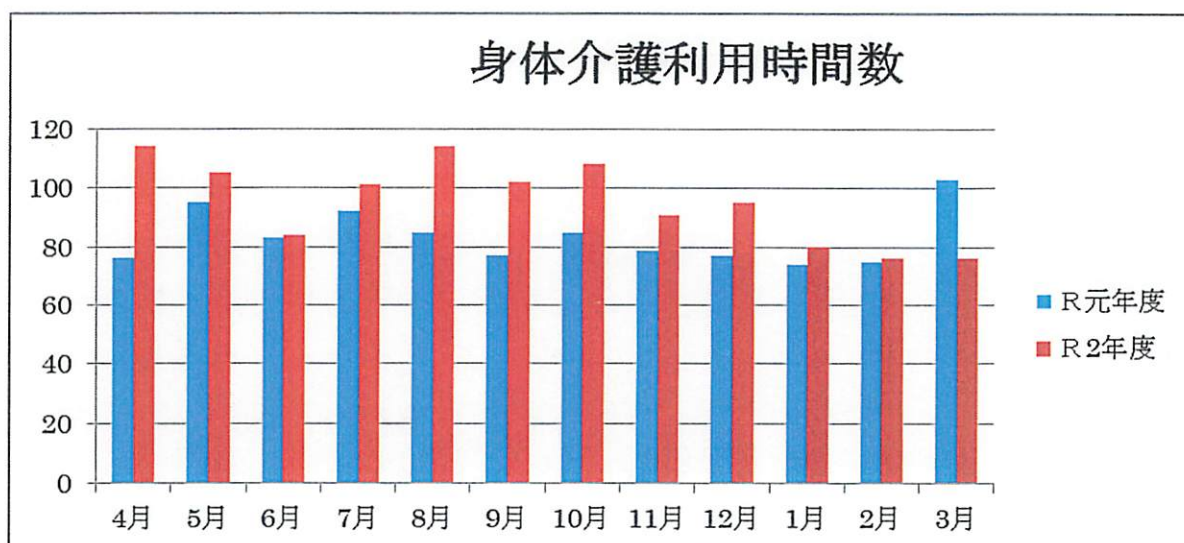
②事業実施計画に対しての評価

① 認知症や身体介護が必要な方などに対する介護能力の向上を図る

認知症ケアについては事例検討や個別の対応について定期会議等行い介護能力向上を図った結果、身体介護につきましては、R2 年度は月平均で 96 時間、前年度と比較すると身体介護対応時間を 13 時間増加する事が出来ました。

生活援助につきましては、独居生活だった方が在宅生活困難となり施設等へ入所された為月平均で 38 時間の減少となりました。

総合事業につきましては、月平均 56 時間で昨年度より 4 時間減少でした。

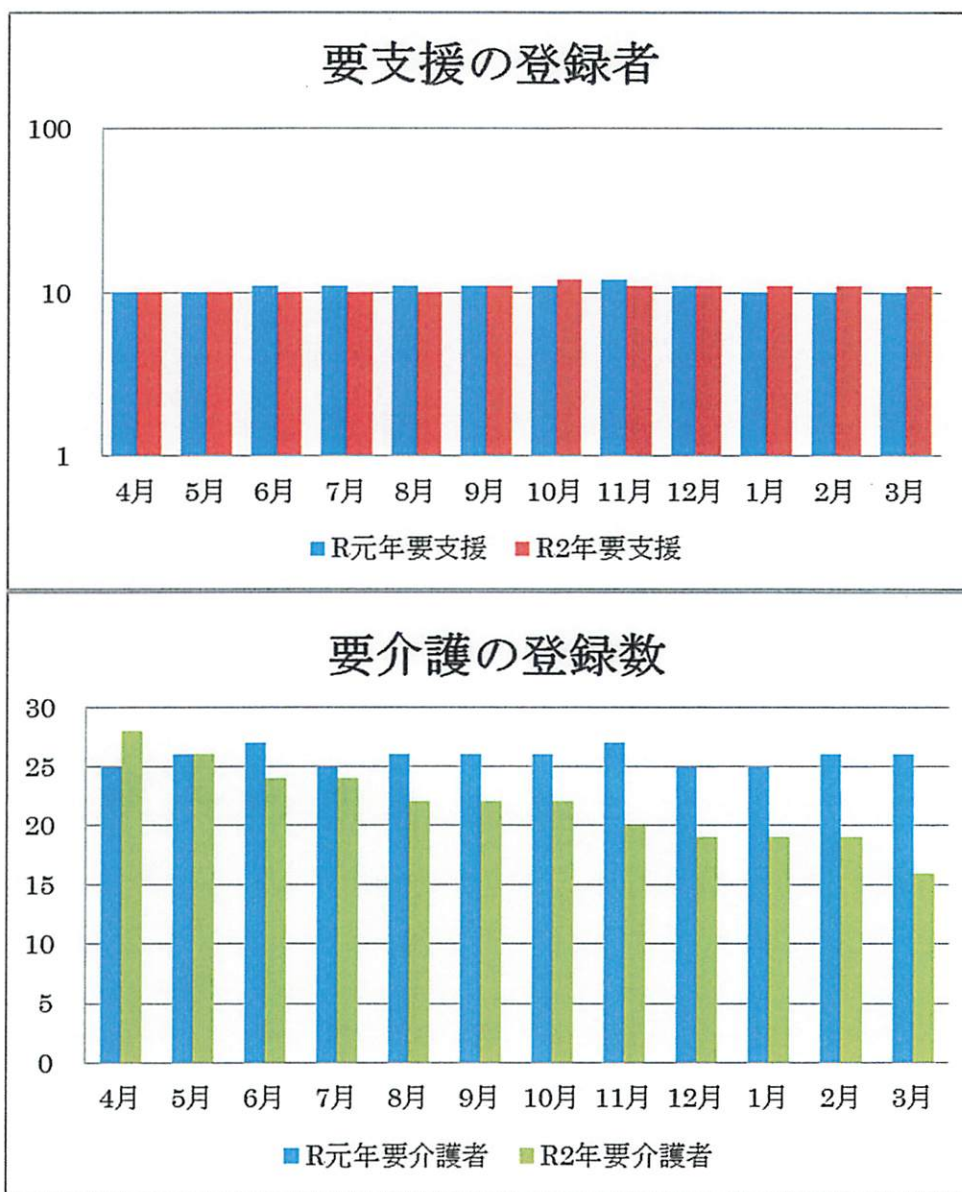


活動地域内での利用者（要介護者）を増やす。

②－１

空き状況を系列居宅支援事業所などの関係機関に配布を行い利用者数維持を目指す。

R2年度は10名の新規利用登録がありました。（系列居宅より要介護者6名、他居宅より要介護者2名・要支援者2名でした。）

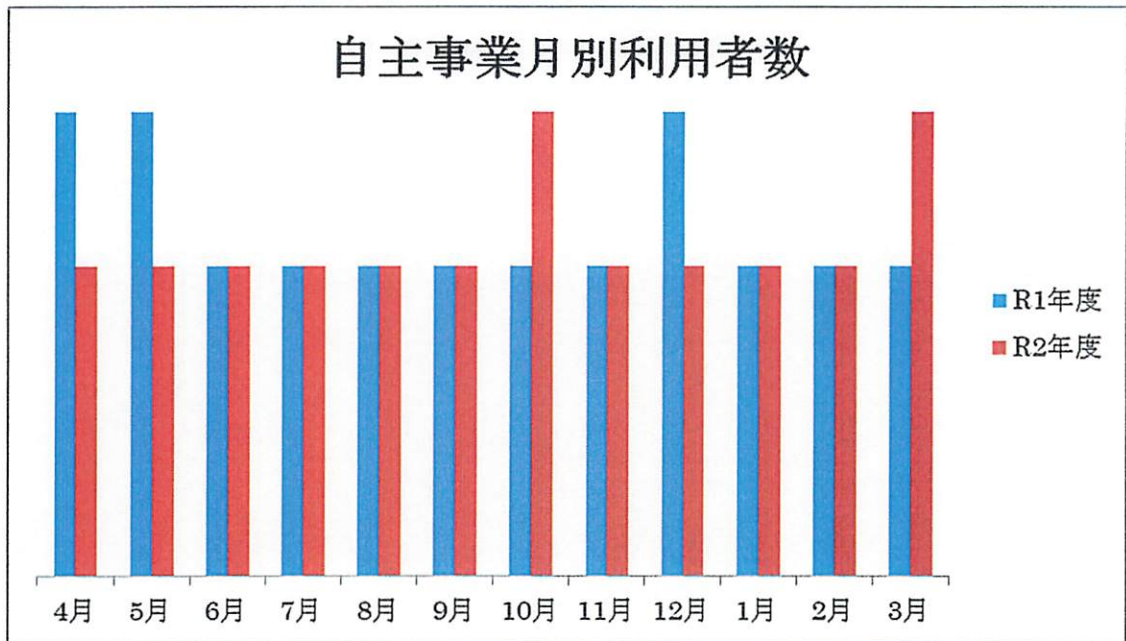


②－２

介護保険では対応出来ないニーズに対して自主事業訪問介護を提供し利用者の満足度向上させる。

R2年度の利用者は月平均で2.2名でした。内容は介護保険では適用されない同居家族世帯の掃除が主でした。

R2年度は昨年度と変わりありませんでした。



③事業の効率化を図る。

③－1

訪問介護員の資格が必要のない総合事業の生活ヘルプについては新規利用の受け入れは行わない。

総合事業での新規利用の依頼はありましたが、元気ヘルプが主で生活ヘルプに関しては依頼はありませんでした。

③－2

自立支援・重度化防止に重点を置き、事業の効率化と増収を目指す観点から、要介護者に重点を置いた利用者の受け入れを図っていく。

R2年度は8名の新規利用登録（要介護）がありましたが、1名が自立支援的見守り援助を行う家事支援の内容（身体・生活）で3名が生活援助・4名が身体介護（入浴支援）の内容でした。

② 令和2年度事業計画に対する数値目標達成率

年間収入目標 1,139 万円に対し年収入 1,132 万円で達成率 99.3%でした。

年間支出予算 78.3 万に対し年間支出 76.1 万円で 2.8%減でした。

人件費では、登録ヘルパーさんが 2 名退職されたので人件費の内訳は常勤・パート（3 名）で 83.1%、登録ヘルパー（2 名）で 16.9%でした。

<収 入>

科 目	2 年度目標数	2 年度実績	達成率
利用者のべ人数	435 人	354 人	81.3%
介護保険事業収入	11,399,000	11,320,486	99.31%

<支 出>

科 目	予算額	実績額	執行率	人件費	人件費率 内訳	職員増減数
事業費支出	297,000	385,561	129.8%	10,635,586	常勤パート 83.1%	増 0 名
事務費支出	445,000	375,656	84.4%	94.3%	登録ヘルパー 16.9%	減 2 名

（総括）

今後も、「自立生活支援のための見守りの援助」を明確にする事で身体介護利用に繋げたいと思います。また、現行サービス内容を引き続き維持出来るように介護能力向上の為の研修を行っていきます。

登録ヘルパーさんが 2 名退職された為、現在 5 名で事業を行っている状況で、供給できる人数に限りがありますが、最近では他市町村の利用者で要介護➡要支援となられる方もおられ、総合事業の指定を受けていない事によりサービスが終了してしまうケースもありました。今後は、大木町と大川市についても総合事業の指定申請を行い介護を必要とされる方にサービス提供が出来るようにしていきたいと思います。

常勤・パートの稼働率を上げるため、訪問時間が変更可能な利用者には、変更を承諾して頂く事で効率良く訪問が出来るようにしてできる限り常勤・パートの訪問回数を増やし、登録ヘルパーの稼働率を抑えることで、人件費率の悪化を改善したいと思います。

今後も、同一法人以外の居宅介護支援事業者に対し、営業活動を強化する必要がある、サービス提供の空き情報などを定期的に情報発信するとともに、地域包括ケア会議等に参加し当事業所の広報活動を行う事で他業種との連携を図り新規利用者の獲得に努めたいと思います。

平成2年度 在宅支援室事業報告書

在宅支援室は、これまで校区サロンや老人会、委嘱学級等の出前講座を中心に活動し、参加者及びボランティア、校区コミュニティ等の抱える課題の抽出や個々の相談対応を行って参りました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、地域行事や自主活動の休止が続きました。地域活動を通じ、参加者の皆様や関係機関の方々と顔見知りの関係が築けてきていたため、今後その連携や関係性が薄れないよう、コロナ禍でもできる活動内容の再検討を行うと共に、定期的にコミュニティセンターや民生委員等と情報交換を行っていくことで、新たなニーズの発掘ができるのではないかと考えております。

1、重点目標に対する実績及び評価

①地域（校区）の抱える課題及びニーズを抽出し、必要とされる地域（校区サロン、老人会等）の支援、新たな校区活動の推進と社会資源の構築

令和2年度における地域支援については、相談・訪問件数共に令和元年度に続き、減少傾向にあります。これは、在宅支援室として活動の創意工夫が十分に行えていなかったこと、積極的な訪問、支援介入が図れなかったためだと考えます。

地域活動が休止となり、行き場がなく悩む高齢者の方々も増えていると推測できるため、今後は地域の状況を把握しつつ、関係機関と連携を図り、高齢者の方々の閉じこもり等による様々な問題が予防できるよう働きかけていく必要があると考えております。

〈活動実績件数〉

	令和元年度	令和2年度
訪問件数	32件	25件
相談件数（電話・来園）	39件	30件
代行申請	9件	3件
居宅移行	3件	1件
出前講座（ふれあいの園独自）	47件	8件

城島町出前講座

新型コロナウイルス感染症拡大・蔓延予防のため、老人会や地域活動の自粛に伴い、町内事業所連携による城島町出前講座も積極的な活動を控えたため実績はありません。しかしな

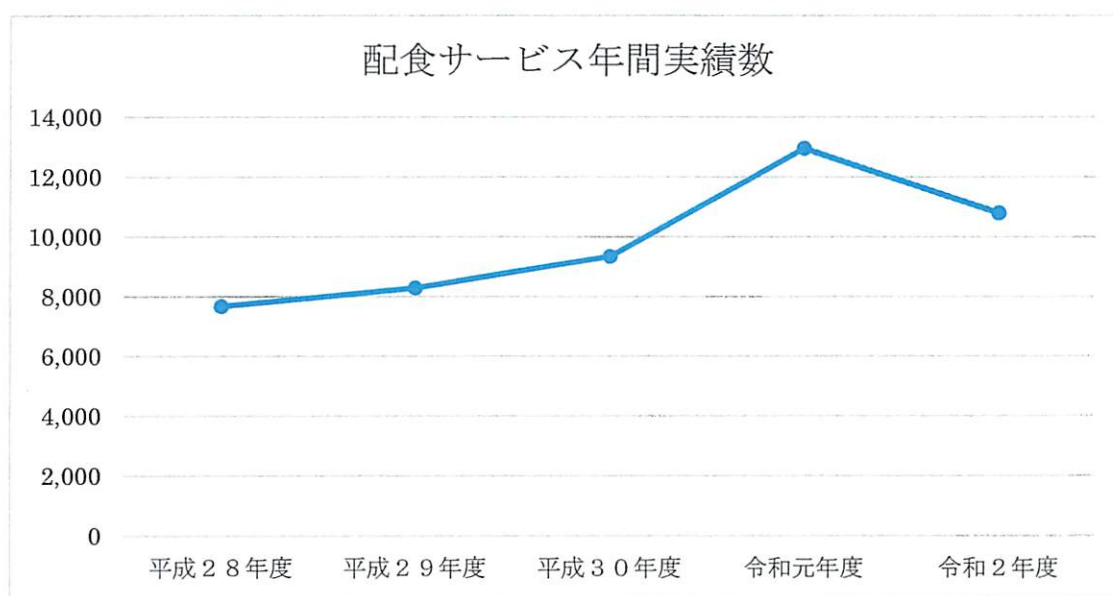
がら、各事業所共に相談窓口機能及び連携体制を残しつつ、事業所マップ、出前講座チラシ等の広報活動への協力を継続しております。

②充実した配食サービスの提供

配食サービスは、令和元年度と比較し、年間 2,157 食の減少となりました。その要因として、おかずのみの需要が高まったこと、厨房職員、配達員（兼運転手）の人材不足に伴い、新規受け入れを休止したことや広報活動が不十分であった点があげられます。休止期間中も、関係機関及び地域住民の方より新規相談は続いている状況であったため、今後は、待機者の皆様を中心に、新規受け入れの再開を行っていくことで、配食サービスの事業継続を図って参りたいと思います。

過去 5 年間の配食サービス実績については下記の表の通りです。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
平成 28 年度	444	613	544	657	649	622	677	638	741	727	629	742	7,683
平成 29 年度	721	777	793	678	720	730	686	679	650	618	556	694	8,302
平成 30 年度	630	672	650	743	786	797	766	798	863	793	922	942	9,362
令和元年度	927	970	1,108	1,176	1,093	1,112	1,193	1,150	1,166	991	1,031	1,048	12,965
令和 2 年度	973	940	905	742	944	1,004	1,034	872	887	820	844	843	10,808



* 令和元年度収入 6,204,600 円、令和 2 年度 5,146,900 (1,057,700) の減収

* 配食サービスは、一食 500 円（おかずのみ 450 円）にて提供しております。

令和2年度ふれあいの園みづまケアプランサービス事業報告書

① 令和2年度の利用状況と実績 ② 収支状況について

◎令和2年度の事業においては、8月までは介護支援専門員3名体制で9月以降は2名体制で業務を遂行しております。

年度途中の体制変更に伴い、介護支援専門員一人に対しての担当件数の見直しを行いました。利用者総数・目標収入においても目標数値に達しない状況となっています。

◎みづまケアプランサービスの開設以来、地域包括支援センターからの相談が中心で、新規利用者を獲得してきた状況です。令和元年度の介護支援専門員3名体制時には11件の相談を受理しましたが、令和2年度は5件に減少しています。同法人や医療機関や利用者・家族からの紹介の相談の27件にも対応しましたが、施設入所や予防8件のケースの西包括への移行等による解約者数も28件と多く、利用者数は減少している状況です。

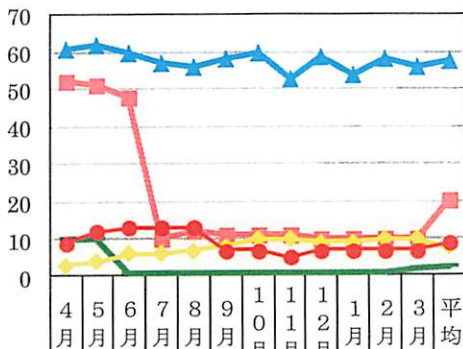
最近の傾向としては、小規模多機能へ移行されるケースも増えてきています。

【数値目標に対する実績数】

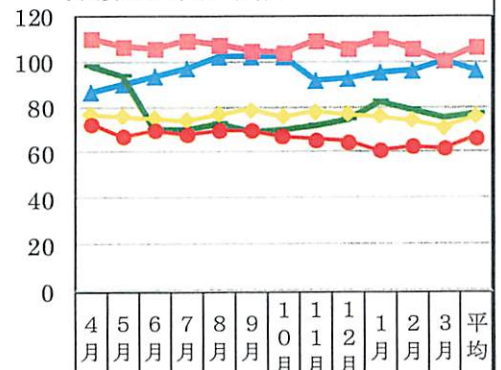
	令和2年度（目標）		令和2年度（実績）		令和2年度達成	
	介護	予防	介護	予防	介護	予防
利用者延べ人数	984人	120人	802人	107人	82%	89%
介護支援専門員数	3人		2人（※①）			
特定事業所加算（介護）	Ⅲ3000円		Ⅲ3000円			
月平均利用者数	82人	10人	66人	8人	80%	80%
介護支援専門員1人に対しての担当者数（※②）	27人	3/2人	27人	3/2人		
介護支援専門員1人に対しての月平均担当件数	28.5人		28.5人		100%	
稼働率（基準担当件数35名）	81%		81%		100%	
収入	14,742,060	469,200	10,239,860	425,870	69%	91%
総収入	15,211,260		10,665,730		70%	

※①令和2年8月までは3名体制（8月まで特定事業所加算Ⅲの算定あり） ※②介護支援専門員延べ人数（29月/1年）

予防月別利用者数



介護月別利用者数

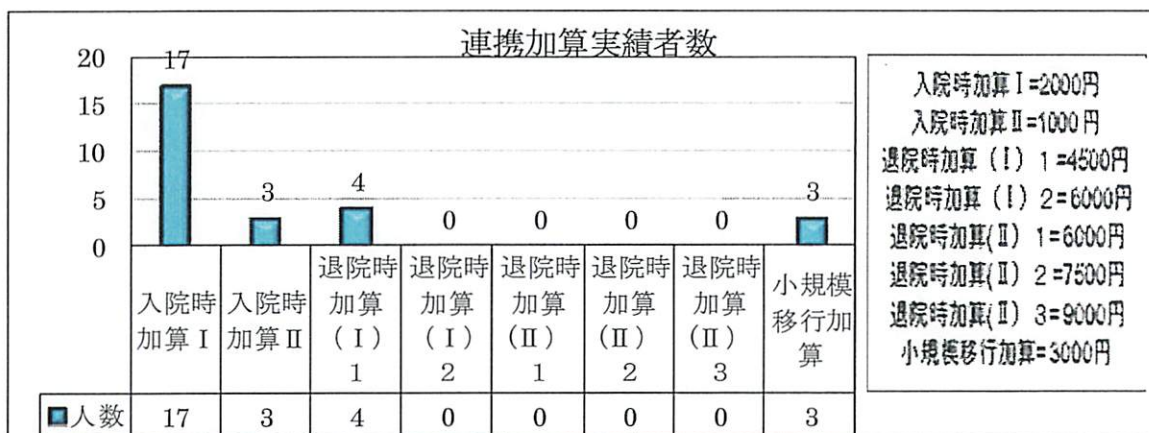


③ 介護報酬及び加算算定について

医療機関や関係機関との連携が問われており、利用者の入退院時には可能な限り連携を行い、今年度においては入退院の加算を24件と小規模移行加算の3件を算定しております。

※加算詳細

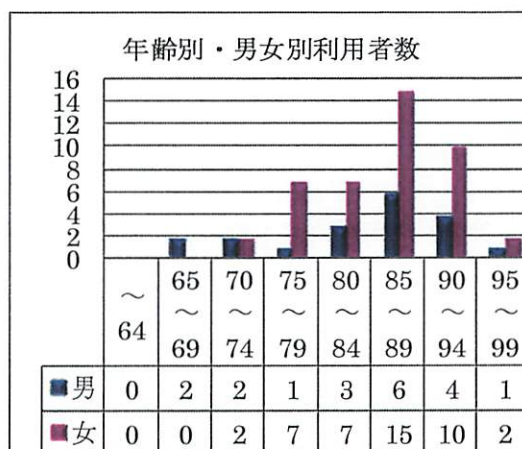
- ・ 要支援1・2 = 月 3910 円
- ・ 要介護1・2 = 月 10570 円
- ・ 要介護3・4・5 = 月 13730 円
- ・ 特定事業所加算（Ⅲ）要介護利用者1名につき、月／¥3000 円の加算は8月分迄を算定。
- ・ その他、初回加算、医療連携加算、入退院時加算等を、その都度算定しております。



④ 年齢・男女別利用者数について

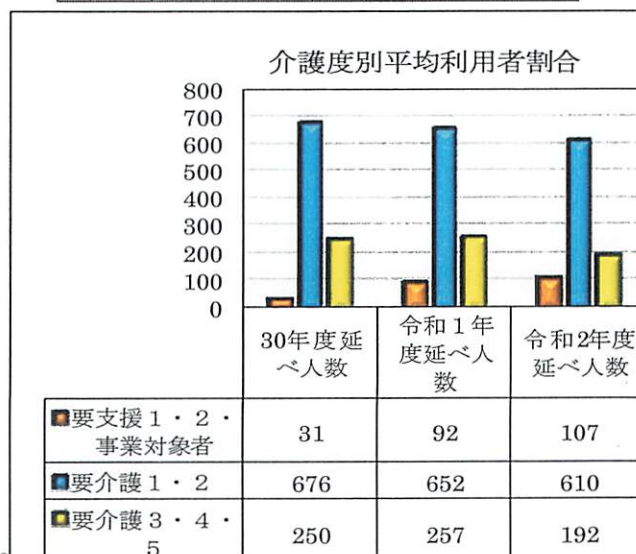
◎令和3年3月利用者分（69名）

- ・ 最高年齢は99歳、最低年齢は68歳で幅広い年齢層の利用者に対応しています。
- ・ 利用者の大半は女性の状況です。



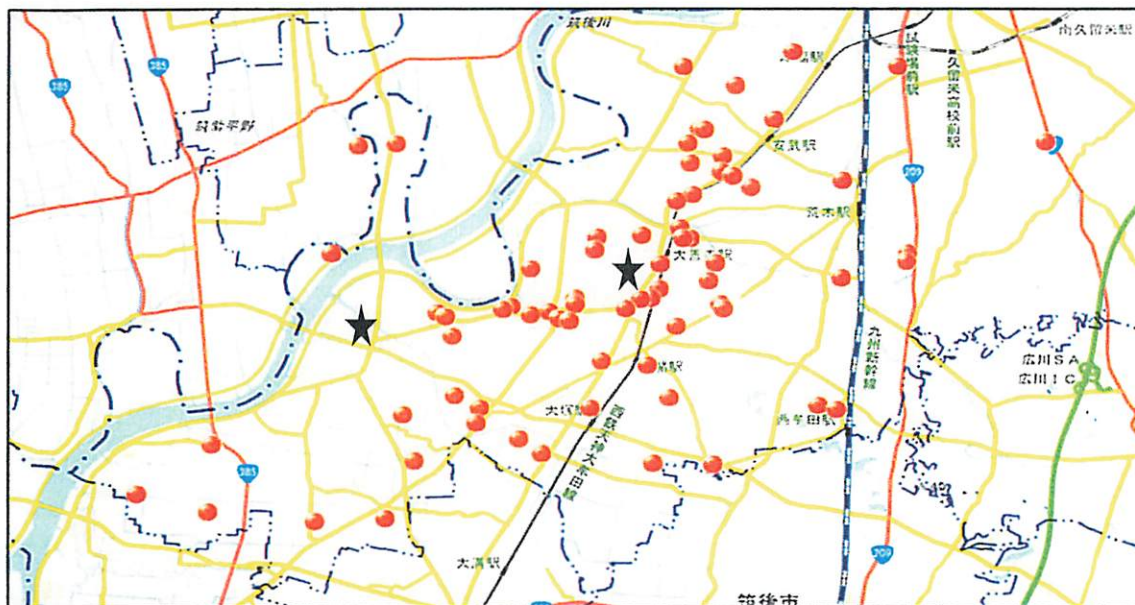
⑤ 年度・介護度別の延べ月平均利用者人数について

- ・ 延べ利用者は、令和元年度と比較すると要介護の利用者は減少していますが、要支援の利用者は増加しております。（コロナ禍による利用控えのケースは延べ15件）
- ・ 要介護1.2の軽度の利用者と要介護3・4・5の重度の利用者の割合的な変動は少ない状況です。



⑥ 利用者の地域別分布について

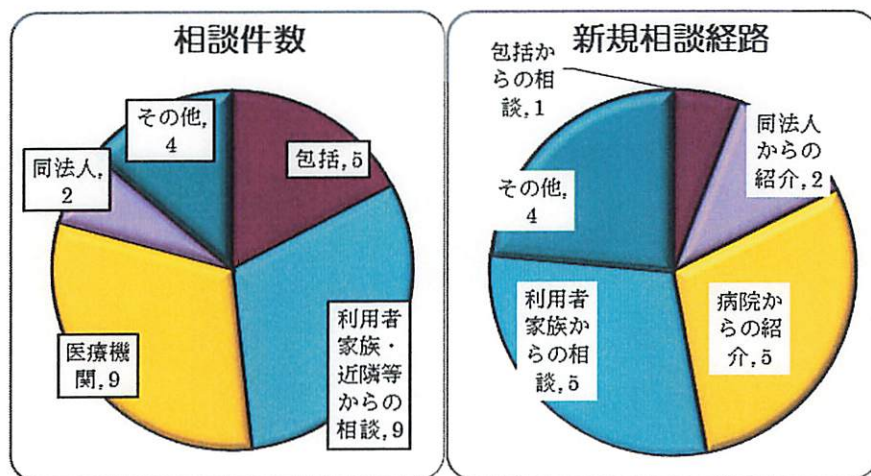
- ・令和元年度と同様に、三潨と城島の利用者が約 5 割を占め、大善寺・荒木・安武の西圏域全体と大木町や佐賀方面の一部の利用分布に変化はありません。
- ・ふれあいの園ケアプランが城島に所在しており、みづまケアプランとしては、三潨・荒木・大善寺・安武地区の利用者の獲得が今後も課題であると考えます。



	予防	介護
城島	1	9
三潨	3	24
大善寺	2	14
荒木	0	3
安武	1	7
他地域	0	4

⑦ 新規相談経路について

同一法人や病院からの紹介など、その都度状況を確認しながら新規相談の受け入れを行っていた状況です。



⑧ 事業実施計画に対する評価

三潨周辺の地域の中に浸透していきたいとの計画に対して、随時新規の相談に対応できるように活動を継続しておりますが、2 名体制では新規の相談に対応する事が困難な状況もありました。(利用者のご家族や民生委員・病院・地域包括支援センター等の関係機関等にパンフレットを配布する等の広報活動は継続して実施してきており、一定の効果もでてきた状況です。)

今後も地域に根差す事業所を目標に、しっかりとコロナ感染や災害の対策等を行い信頼される事業所作り・継続した広報活動等を継続していく必要があると考えます

研修に関しては、コロナ禍で外部講師を招いての研修は中止としましたが、内部の研修等の継続で業務順応を適切に行えるように対応しました。

- ・ 内部研修
 - 毎週の事業所内でのケース検討等（8月まで）
 - 感染症対策の研修（随時）
 - 介護報酬改定の研修
- ・ 外部研修等
 - 集団指導（オンライン）
 - 高齢虐待防止研修（オンライン）
- ・ その他
 - マスクの配布（利用者全員）

⑨ 今後の課題について

事業所の運営を安定させるためには、周知活動や研修の継続が必要と考えます。加えて介護支援専門員の事務処理業務に関する負担軽減を図り、業務効率化に意識して取り組んでいくことで働きやすい環境作りに取り組んでいきます。

当面の間は、ケアマネジメント業務でも感染防止を踏まえた弾力的な対応や、状況次第で通常とは違った臨時的な対応での支援の検討を行っていきます。

※コロナ禍で介護支援専門員の負担軽減と業務の効率化を考えると、時差出勤の検討やIT機器の活用
の検討も必要になってくると考えられます。

※介護支援専門員の減から事業所が抱える利用者数は減少の状況で、人件費率も悪化傾向にあり、将来的には本部との事業所の統合等も視野に入れてメリット・デメリット面について介護保険の動向の確認
を行っていきます。

今後も、状況を確認しながら介護の新規や予防の利用者を増やし、稼働率を高めると共に、三潁の周辺
地域に浸透して地域での貢献度を高めていきたいと考えます。

支出	予算額	実績額	執行率
事業費支出	451.000 円	534.846 円	118.6%
事務費支出	837.000 円	724.709 円	86.6%
人件費	14.771.000 円①	12.902.361 円②	87.3%

① 予算人件費については、介護支援専門員3名体制の予算額であり、36ヵ月/年の算定

② 実績については、29ヵ月/年算定を記載

	総収入	人件費	総収入における 人件費率
実績額	10.665.730 円	12.902.361 円	120.9%

令和2年度 ふれあいの園みづま館小規模多機能型居宅介護事業報告

1 利用状況と実績について

令和2年度は、新規利用者4名・登録解約者3名でした。総登録者は、22名で、延べ利用者数平均は17名でした。平成28年度から令和2年度までの新規・再登録者数と解約数を見てみると、新規・再登録者が5年間の平均14.4名で解約者が5年間の平均14.6名でした。令和2年度では、新規利用者は4名と登録者の変動は少ない年で、新規利用者の紹介経路としては、富田病院から1人・聖マリアから1人・みづまケアプランサービスから2人となっています。

新型コロナウイルス感染対策上、同法人の事業所や医療機関より退院される方で新型コロナウイルス感染の疑いがない方の受け入れを行った為に受け入れに偏りがありました。

また、少しでも感染リスクを軽減するため、長期の泊り希望者を積極的に受け入れました。結果的には、登録者は減少しましたが収益的には安定しました。

登録解除者の理由としては、2人が入院。施設入所が1人となっています。

令和2年度の収入目標達成率に関しては、収入見込額が5595万に対して収入達成率は100.52%と目標達成した状況にあります。

事業費・事務費に関しては、予算の執行率は、想定内でありました。人件費率は、86%となっております。

平成28年度から令和2年度までの新規、再登録者・解約者・登録人数

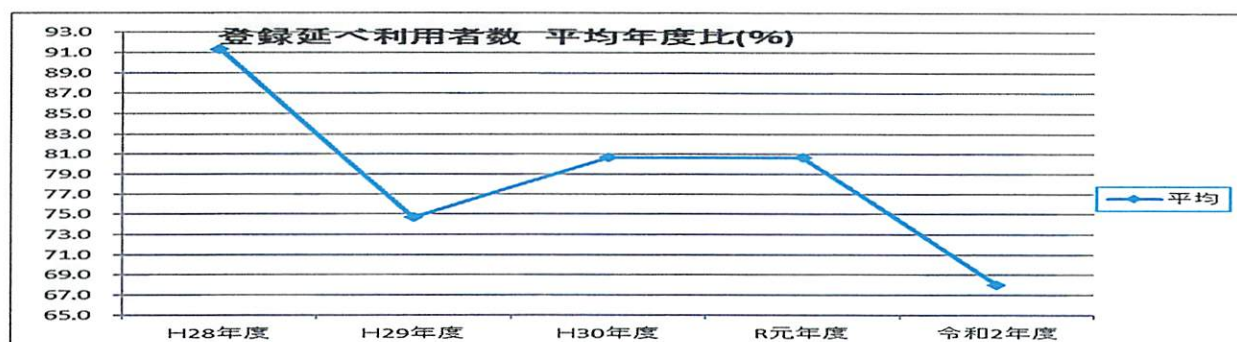
	H28年度			H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
	新規・再登録者	解約	登録者	新規・再登録者	解約	登録者	新規・再登録者	解約	登録者	新規・再登録者	解約	登録者	新規・再登録者	解約	登録者
4月	3	2	23	2	2	20	0	0	16	0	1	20	2	2	16
5月	0	2	21	1	1	20	3	0	19	2	1	21	0	0	16
6月	3	1	23	0	1	19	2	1	21	1	0	21	2	1	17
7月	1	3	21	0	0	19	1	2	21	0	0	21	1	1	17
8月	2	1	22	0	0	19	1	2	20	0	0	21	1	1	17
9月	2	1	23	2	1	20	2	1	21	1	1	22	1	1	17
10月	0	1	22	0	1	19	0	1	20	0	0	21	0	1	16
11月	2	1	23	1	2	18	1	1	19	1	2	22	2	0	18
12月	1	3	21	0	1	17	2	1	20	0	1	19	1	1	18
1月	3	5	19	1	3	17	2	1	21	0	2	18	1	2	17
2月	4	2	21	1	1	15	1	1	21	2	1	18	0	0	17
3月	2	3	20	5	2	19	2	1	22	0	2	16	1	0	18
合計・平均	23	25	21.6	13	15	18.5	17	12	20.1	7	11	20.0	12	10	17.0

① 登録延べ利用者数

② 登録延べ利用者数 年度比(%)

	登録延べ利用者数						登録延べ利用者数 年度比(%) 25人を100%とする				
	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	令和2年度		H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	令和2年度
4月	23	21	16	20	16	4月	92	84	64	80	64
5月	23	20	19	21	16	5月	92	80	76	84	64
6月	23	19	21	22	17	6月	92	76	84	88	68
7月	23	19	21	21	17	7月	92	76	84	84	68
8月	23	19	20	21	17	8月	92	76	80	84	68
9月	24	20	21	22	17	9月	96	80	84	88	68
10月	23	19	20	21	16	10月	92	76	80	84	64
11月	24	18	19	22	18	11月	96	72	76	88	72
12月	23	17	20	19	18	12月	92	68	80	76	72
1月	23	17	22	18	17	1月	92	68	88	72	68
2月	21	15	21	18	17	2月	84	60	84	72	68
3月	21	20	22	17	18	3月	84	80	88	68	72
平均	22.8	18.7	20.2	20.2	17.0	平均	91.3	74.7	80.7	80.7	68.0

② - 1 登録延べ利用者数 年度比(%) 25人を100%とする



③ 収支・人件費率

収入	令和2年度目標数	令和2年度実績	達成率
登録利用者数(25人)	22	17	77.27%
総収入	55,950,000	56,241,793	100.52%

支出	予算額	実績額	執行率	人件費率
事業費支出	6,323,400	5,728,218	90.59%	48,513,391
事務費支出	2,353,000	2,304,542	97.94%	86%

令和2年度の登録者の平均要介護度は、2.60でした。

平成30年度の登録者の平均要介護度は、2.29・令和元年度の登録者の平均要介護度は、2.43であり令和2年度は要介護度が上がっている状況にあります。

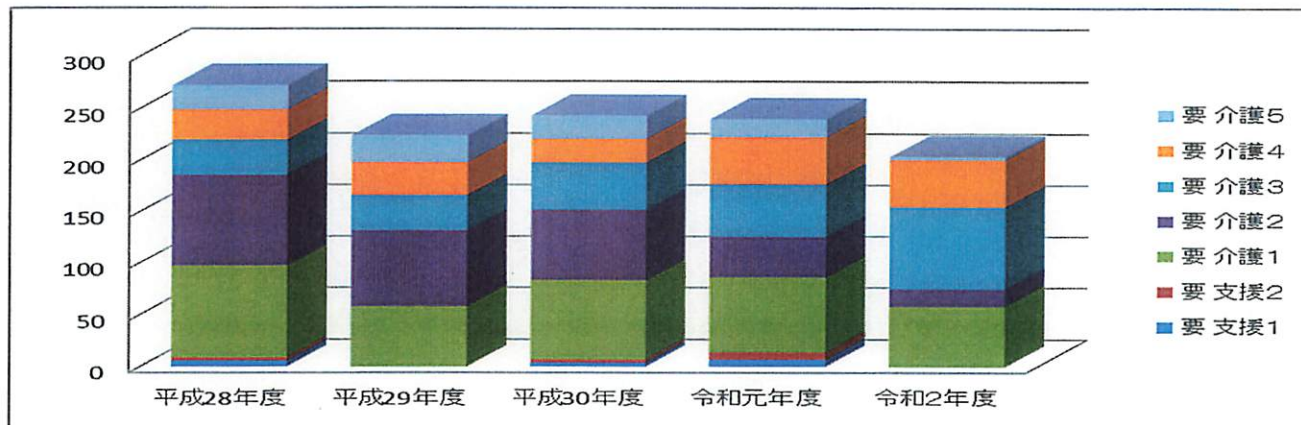
平成28年度から令和2年度までの要介護度別合計を見てみると、要支援の方は全体の2.5%、要介護1・2の方は、全体の54.2%、要介護3・4・5の方は、全体の43.3%でした。令和元年度からすると要介護1・2の方の人数は減り、要介護3・4・5の方は増えた状況にあります。

登録利用者数は減った状況でしたが、小規模多機能は包括払いの為に、要介護度が上がり登録数が上がると良い状況になります。令和2年度は、要介護1・2の方は人数が減少しましたが、要介護3・4・5の方が増加したので、総収入の目標達成率は100.52%と、令和元年度より収入は上がっている状況です。

④令和2年度 登録者の要介護度別人員(平均要介護度は、「要支援1・要支援2は0.375で計算行う」)													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	6	5	5	5	5	5	4	5	5	5	4	4	58
要介護2	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1	2	2	17
要介護3	6	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	80
要介護4	3	3	4	4	4	4	4	5	5	3	3	4	46
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
計	16	16	17	17	17	17	16	18	18	17	17	18	204
月平均要介護度	2.38	2.44	2.53	2.53	2.59	2.59	2.69	2.67	2.67	2.65	2.71	2.78	2.60

⑤介護度別利用者数(登録者合計)

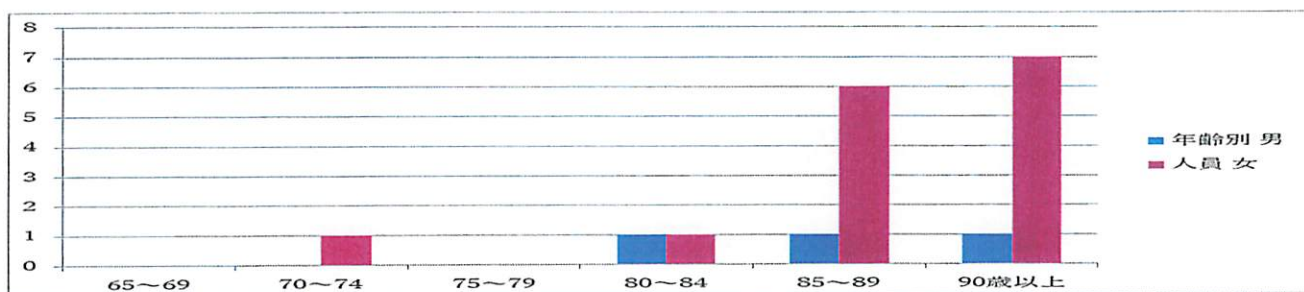
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	要支援合計	要介護1・2合計	要介護3・4・5合計
平成28年度	6	3	88	89	34	29	23	9	177	86
平成29年度	0	0	58	74	34	32	26	0	132	92
平成30年度	4	3	76	69	46	23	22	7	145	91
令和元年度	7	7	72	40	51	46	17	14	112	114
令和2年度	0	0	58	17	80	46	3	0	75	129



令和3年3月現在の登録者の平均年齢は、88.7歳でした。

令和2年3月が89.3歳でしたので、令和2年度が若い方が若干多かったです。また、85歳以上の方が88.2%の割合でした。

⑥年齢別状況		令和3年3月現在								
年齢別		65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	計	平均	最高齢
人員	男	0	0	0	1	1	1	3	89	96
	女	0	1	0	1	6	7	15	88.3	99
	計	0	1	0	2	7	8	18	88.7	



令和2年度の加算状況についてですが、サービス提供体制加算・総合マネジメント体制加算は、登録者全員にかかる加算です。看護職員配置加算については、要支援者以外にかかる加算で、認知症加算【1】【2】は利用者の状態による加算となります。登録者を増やすことで、認知症加算以外については、取れることとなりますので、要介護度が高い方と登録者の数を多くする必要があると考えております。

⑦令和2年度 加算状況													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
看護職員配置加算	16	16	17	17	17	17	16	18	18	17	17	18	204
サービス提供体制強化加算	16	16	17	17	17	17	16	18	18	17	17	18	204
総合マネジメント体制強化加算	16	16	17	17	17	17	16	18	18	17	17	18	204
認知症加算【1】	5	6	6	7	6	6	6	8	8	8	8	8	82
認知症加算【2】	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	14
初期加算【延べ日数】	29	1	0	0	15	15	0	35	16	0	20	32	163
看取り連携体制加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

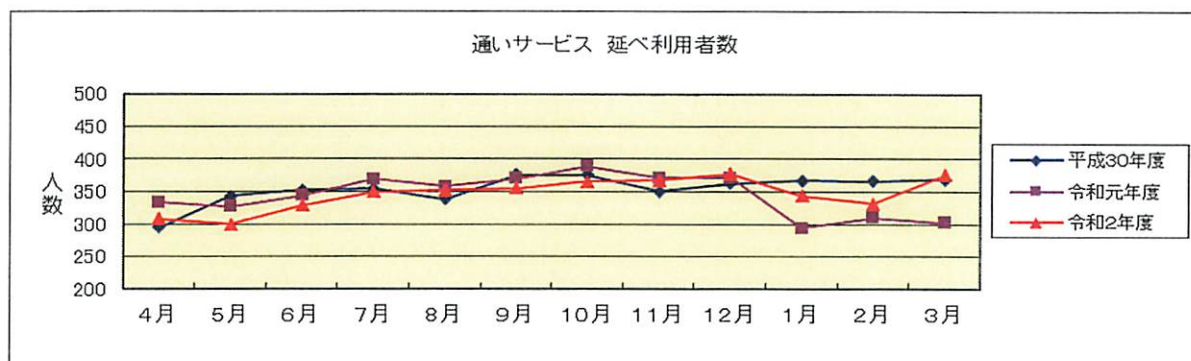
令和2年度のサービス提供は、通いサービスが1日平均11.4、泊りサービスが1日平均7.5、訪問サービスが1日平均1.9でした。

通いサービスのみの利用者は、月平均で8.3人・利用回数としては、12.4回でした。長期泊り者(30日以上)は月平均6.8人、通いと泊りの併用利用者は月平均2人、訪問利用者は月平均3人でした。訪問は同じ利用者で、服薬介助の為の訪問と通いサービス利用前の準備及び施設確認の訪問内容でした。令和元年度と比べて、通いサービスが1日平均11.3であったものが11.4、泊りサービスが1日平均5.3であったものが7.5、訪問サービスが1日平均1.6であったものが1.9となり、通いサービス・訪問サービス・泊りサービス共に、登録者数は減少していますが、要介護度が高くなった為にサービス量は増加となっております。また、泊りサービスに関しては、コロナ過で新規利用者獲得が厳しい為に、長期の泊り利用者を多く受入れることで収入アップになるように対応しております。

令和2年度サービス内容														
通いサービスのみのみ														
サービス内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
利用者数	10	9	8	8	8	8	6	8	9	8	8	9	99	8.3
利用回数	136	130	105	100	99	93	85	93	107	88	88	105	1229	12.4
長期泊り(30日以上)														
サービス内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
利用者数	5	4	7	7	7	8	7	7	7	7	8	8	82	6.8
通いと泊りの併用利用者														
サービス内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
利用者数	1	3	3	2	2	1	3	3	2	2	1	1	24	2.0
訪問														
サービス内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
利用者数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	3.0

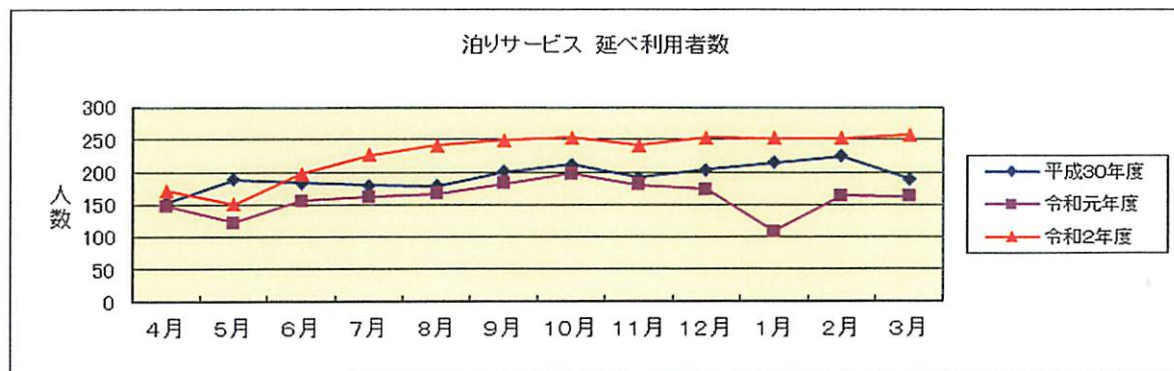
通いサービス

サービス内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成30年度	295	343	352	354	338	376	376	350	363	367	366	369
令和元年度	333	327	344	369	358	370	389	371	371	294	310	302
令和2年度	308	300	329	349	352	355	365	367	378	344	332	376



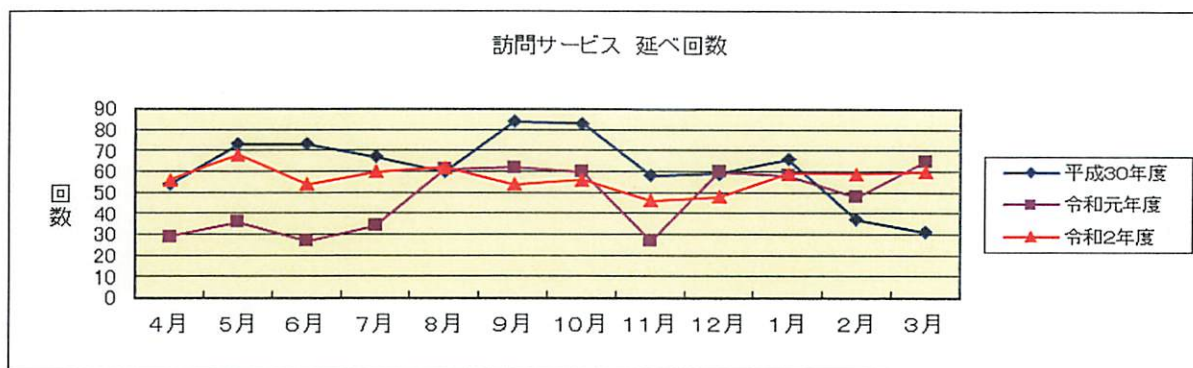
泊りサービス

サービス内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成30年度	153	189	184	180	179	201	212	192	204	215	224	190
令和元年度	148	122	156	162	167	183	198	181	174	109	164	163
令和2年度	172	151	198	226	241	249	253	241	253	252	252	257



訪問サービス

サービス内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成30年度	54	73	73	67	60	84	83	58	59	66	37	31
令和元年度	29	36	27	34	61	62	60	27	60	58	48	65
令和2年度	56	68	54	60	62	54	56	46	48	59	59	60



2 職員の研修について

重点目標の1つでもありました、職員同士がスキルアップし統一性と作業効率を上げていく為に、内部研修を行いました。外部研修には、新型コロナウイルス感染拡大防止の為に参加できませんでした。内部研修については、定期的に行い、防護服着脱研修などを実施しました。

職員研修	
4月	
5月	
6月	内部研修(認知症ケア・プライバシー・身体拘束)
7月	
8月	
9月	高齢者虐待防止研修・認知症ケアについての勉強会
	内部研修(感染症・食中毒・リスクマネジメント)
10月	
11月	内部研修(感染症及び食中毒)
12月	内部研修(非常災害時の対応)
	新型コロナウイルス対策の防護服着脱研修
1月	高齢者虐待防止研修
2月	
3月	

3 地域・家族との関わりについて

重点目標の1つである地域・家族との繋がりを強化する目的で、食事会(利用者・家族)・茶話会(家族会)を開催していましたが、令和2年度は出来なかったです。

家族とは、送迎時に話しを行い、泊り利用者の家族とはタブレットを活用しLINEにてやり取りを行い、生活状況を把握して頂きました。地域行事にも中止が多く全く参加出来ていません。

運営基準に定められた運営推進会議を、自治会長、早津崎民生員、尚寿会早津崎支部長、久留米市担当者、包括支援センター職員、利用者、利用者家族、職員にて行っていましたが、令和2年度は書面開催にて対応を行いました。

☆ 運営推進会議 【5月 7月 9月 11月 1月 3月】中止

令和2年度	地域行事	みづま館行事
4月		
5月		フラワーアレンジメント 母の日・誕生会
6月		誕生会・父の日
7月	空き缶拾い	七夕会・誕生会
8月		ミニ夏祭り・誕生会
9月		敬老会・誕生会
10月		避難訓練・おやつ作り・誕生会 (バスハイク玉垂宮参拝)
11月		
12月	ゴミセン掃除	フラワーアレンジメント・誕生会
12月		クリスマス・忘年会
1月		新春福笑い会・誕生会
2月		節分
3月		避難訓練(事業所のみ)・花見・雛祭り

4 広報活動の強化について

計画では、4ヶ月に1回、行事の内容・写真等を地域の回覧板に載せて頂く事を目標に上げており、目標どうり実施することが出来ませんでした。

5 今後の課題について

令和2年度の事業計画に上げておりましたが、事業実施計画について回数等は達成出来ない計画もありましたが、計画通り行うことは出来たと考えております。しかし、新型コロナウイルスの影響で行事・研修・運営推進会議等は、落ち着くまでは積極的には行えない状況にありますが、状況を見ながら、出来る事を行っていかうと考えております。新規受入れは積極的に行い、利用者数を増加させます。定期的に、感染症対策を職員で確認しながら、利用者だけでなく、職員も感染せずに、業務に従事できるようにおこなっていきたいと考えます。

みづま館認知症対応型通所介護事業所

令和2年度事業報告書

令和2年度は、職員5名で事業運営をする予定でしたが1名体調不良や産休・育児休暇により、職員4名での事業運営を行いました。

事業計画の重点目標であった1の職員の技術・知識の向上は、少しでも職員が安心して業務を行えるように感染症対策やガウンテクニックなどを重点的に行いました。外部研修への参加は、新型コロナウイルス感染拡大もあり、ほとんど参加できませんでした。2の特色を活かした事業の展開は、地域交流ができず、季節行事も中止や縮小行い、少人数で少しずつ行えるものを実施しました。また家族会も中止し、こちらから自宅に出向き緊急性の高いご家族にお会いする時間を作りました。3の広報活動は、新型コロナウイルス感染拡大により地域行事や地域の勉強会などが減り、また独自の広報紙の作成になかなか取り組めず広報活動が積極的には行えませんでした。

これを踏まえ今後の課題としましては、新型コロナウイルス感染状況をみながら、認知症ケアなどの研修に力を入れ、処遇面の充実やご家族の声にも応えていけるように努めていきたいと思ひます。また広報活動にも取り組んでいきたいと考えています。

◎収支状況

○ 収入

	令和2年度目標数	令和2年度実績	達成率
利用者延べ数	1673(月140)	1684(月140)	101%
総収入	・介護報酬 21,480,000 ・利用料収入 1,158,000 ・合計 22,638,000	・介護報酬 19,326,890 ・利用料収入 1,073,880 ・その他の収入 514,483 - 合計 20,915,253	92.39%

○ 支出

	予算額	実績額	執行率
事業費支出	2,429,000	3,039,646	125.14%
事務費支出	971,000	983,528	101.29%
人件費	16,294,962	人件費率	85%

※ 事業費支出実績が増加していますが、テレビの故障によりテレビの購入や感染症対

策用の物品（空気清浄機・パーティション・机等）の購入、また消耗品（ペーパータオル・グローブ等）の単価が上がっていたり、前年度に比べ消耗品の使用量が増加しており、予算を大幅に上回りました。

◎ 利用状況について

令和２年度は、新規利用者６名、登録解除者が５名でした。また表を観ても分かりますように、登録者数は前年度と比べ減少していますが、延べ数が若干増加しており１人当たりの利用回数が増えた事が分かります。

年度別利用者数

	利用者数(実人数)					利用者数(延べ数)				
	H28 年	H29 年	H30 年	R元年	R2 年	H28 年	H29 年	H30 年	R元年	R2 年
4 月	17	20	16	16	15	191	203	174	131	141
5 月	18	20	16	16	14	197	218	183	142	137
6 月	18	19	17	15	16	204	218	179	112	148
7 月	19	20	16	16	16	204	203	183	142	143
8 月	20	18	16	16	16	221	199	180	129	135
9 月	20	18	17	17	16	213	101	171	138	135
10 月	19	16	18	17	15	211	191	170	153	142
11 月	18	18	18	17	16	183	192	153	156	138
12 月	17	18	17	16	15	182	192	159	148	141
1 月	18	18	16	16	16	180	188	127	143	137
2 月	19	17	15	16	15	167	157	124	142	140
3 月	21	16	15	14	15	222	187	139	131	147
合計	224	217	197	192	185	2375	2340	1942	1667	1684

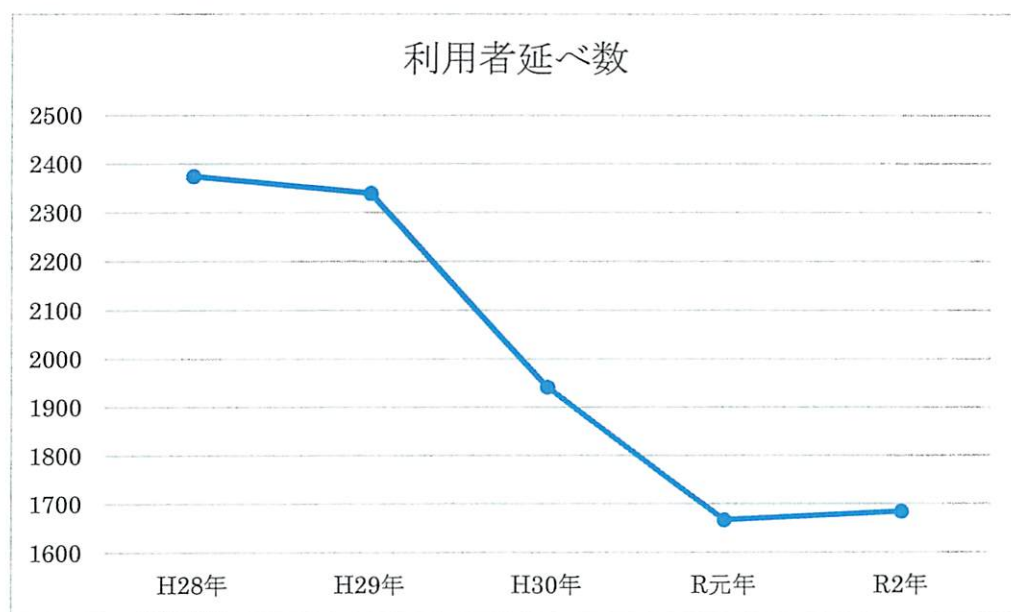
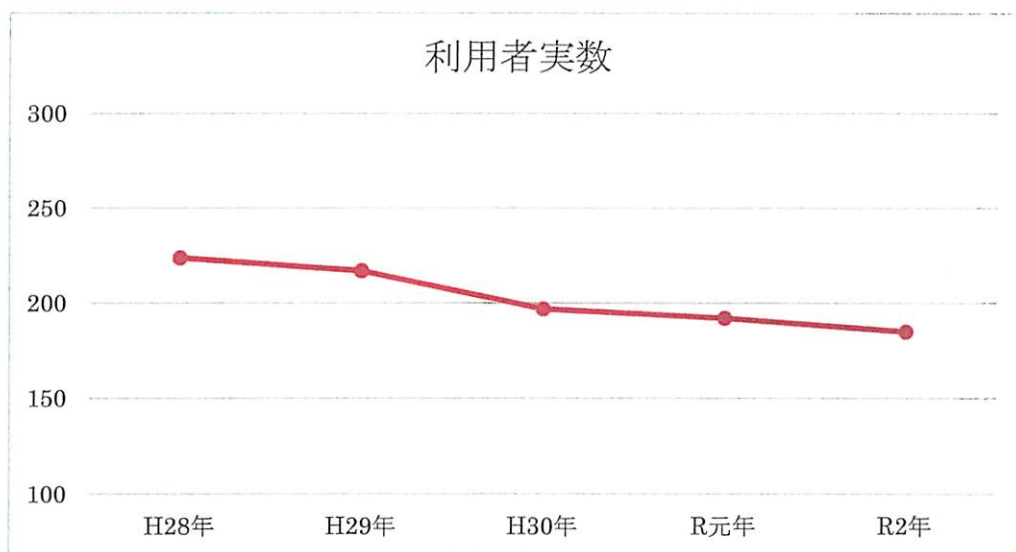
(新規利用者数 ６名・登録解除者数 ５名)

・月平均登録者数

H28 年	H29 年	H30 年	R 元年	R2 年
18.7	18.1	16.4	16	15.4

・1 人あたりの月平均利用回数

H28 年	H29 年	H30 年	R 元年	R2 年
10.6	10.8	9.9	8.7	9.1



※新規利用者紹介経路

- ・居宅支援事業所からの紹介 5 名（うち他居宅介護支援事業所 2 名）
- ・家族からの相談より 1 名

※登録解除理由

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| ・入所 2 名 | ・小規模へ移行 1 名 |
| ・入院 1 名 | ・本人都合 1 名 |

利用者延べ数年度別対比

利用者延べ数年度対比(%) 1日定員12名を100%とする						
	H28 年	H29 年	H30 年	R元年	R2 年	
4 月	61.2	67.7	58.0	42.0	45.2	
5 月	63.1	67.3	56.5	45.5	44.0	
6 月	65.3	65.1	57.4	37.3	47.4	
7 月	65.3	69.9	58.7	43.8	44.1	
8 月	68.2	61.4	55.6	43.0	43.3	
9 月	68.3	61.5	57.0	46.0	45.0	
10 月	67.6	61.2	54.5	47.2	43.8	
11 月	58.7	61.5	49.0	50.0	46.0	
12 月	56.2	61.5	53.0	47.4	44.0	
1 月	57.7	60.2	42.3	45.8	48.0	
2 月	58.4	58.0	43.1	47.3	49.0	
3 月	68.8	57.7	44.6	42.0	45.4	
平均	63.2	62.8	52.5	44.8	45.4	

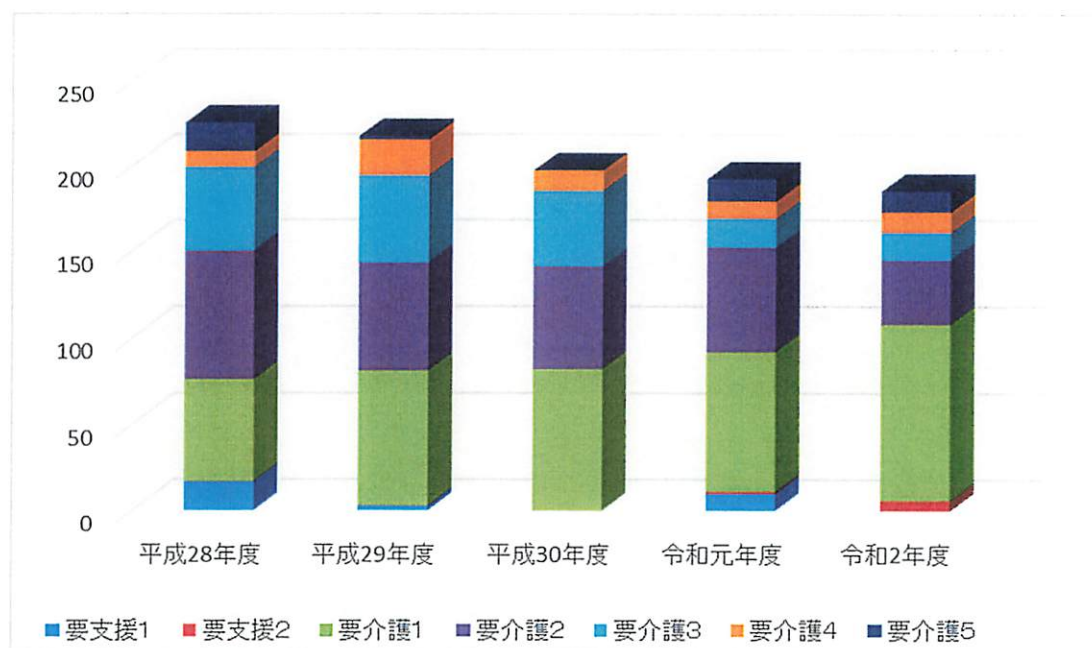
◎介護度別利用者数

要介護 1 の利用者が増加し、要介護 2 の利用者は、減少しています。

介護度別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	6
要介護1	7	6	9	9	9	9	9	9	8	9	9	9	102
要介護2	3	3	2	3	3	3	3	4	4	3	3	3	37
要介護3	2	2	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1	16
要介護4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
要介護5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
平均	1.89	1.96	1.77	1.71	1.71	1.71	1.8	1.81	1.87	1.88	1.8	1.8	

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
平成28年度	17	0	59	74	49	9	17
平成29年度	3	0	78	62	51	21	2
平成30年度	0	0	82	59	44	12	0
令和元年度	10	1	81	60	17	10	13
令和2年度	0	6	102	37	16	12	12



◎入浴実施数

入浴介助数は、前年度と比べ延べ数が若干増加している分、入浴介助数も増加しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	10	11	12	12	12	12	11	12	12	13	12	12	
延べ人数	104	109	119	121	115	111	115	118	121	117	122	127	1399
令和元年	113	110	83	113	104	95	114	112	104	102	107	100	1257

◎年齢別利用者数

令和 3 年 3 月現在の登録者の平均年齢は、85.2 歳でした。元年度と比較し平均年齢が若干上がっています。

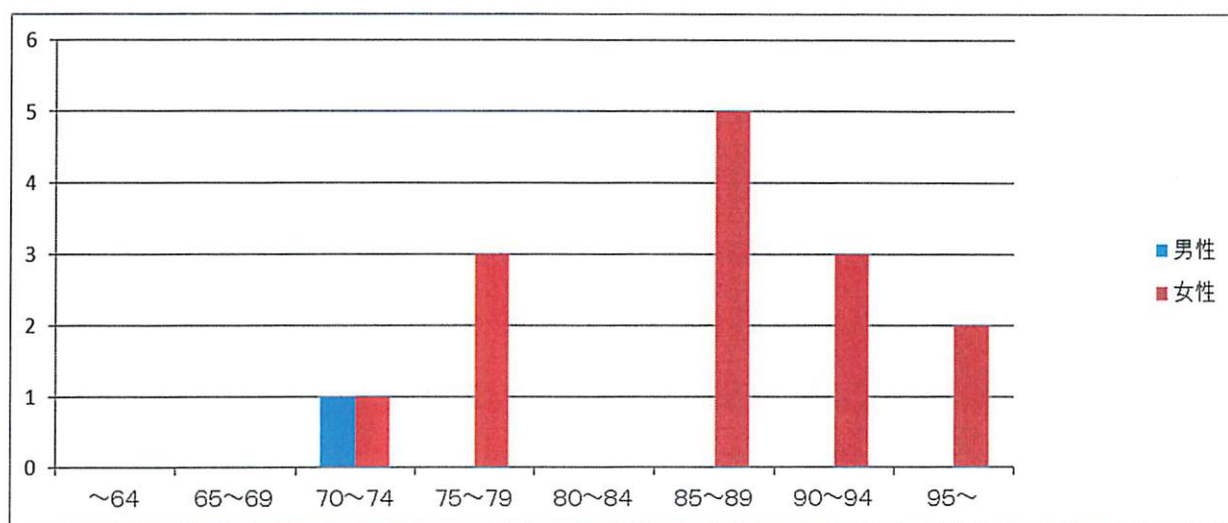
年齢別

令和 3 年 3 月 31 日現在

年齢別		～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	計
人員	男	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	女	0	0	1	3	0	5	3	2	14
	計	0	0	2	3	0	5	3	2	15
前年度	計	0	0	2	3	1	5	1	2	14

平均年齢 85.2 歳

(前年度 84.3 歳)



令和 3 年 3 月現在

男性：1 名 女性：14 名

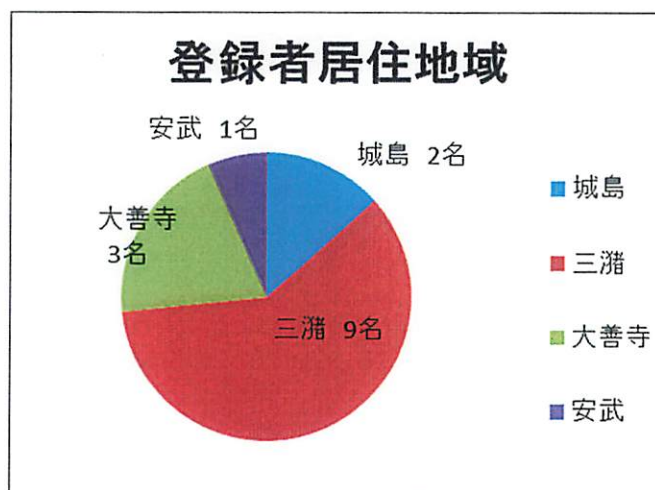
◎登録者居住地別一覧

三潯町からの利用が半数以上を占めており、令和2年度は安武町からの利用も初めてありました。

登録者の居住地別一覧表

居住地	登録者数
城島	2
三潯	9
大善寺	3
安武	1

令和3年3月31日現在



◎運営推進会議について

- ・9月に1回目・3月に2回目の予定をしていましたが新型コロナウイルス感染拡大の為、運営推進会議の開催を中止し、書面での開催を行い、資料を配布し運営基準に定められた自治会長、早津崎民生員、尚寿会早津崎支部長、久留米市担当者、包括支援センター職員、利用者、利用者家族、職員にて利用者の利用状況及び取り組みに関して報告を行い、運営に対してそれぞれの立場での意見を拝聴し、運営の改善に努めました。

◎職員研修について

重点目標にしていた職員の技術・知識の向上でしたが、職員の声を聴き、感染対策に力を入れ、現場の状況や新型コロナウイルス感染状況を見ながら内部研修や勉強会の実施を行いました。また外部研修は、現場の状況等で参加出来ませんでした。

職員研修	内部研修	外部研修
4 月		
5 月	認知症ケア	
6 月		
7 月	新型コロナウイルス感染症対策について	
8 月	新型コロナウイルス感染シュミレーション	
9 月	感染症対策・対応研修(ガウンテクニック等)	
10 月	パワーハラスメントについて	
11 月	よりよい職場づくりについて	
12 月	ガウンテクニック	
1 月		
2 月	感染症対策・対応研修(ガウンテクニック等)	高齢者虐待防止研修
3 月		

◎行事について

新型コロナウイルス感染拡大により行事の縮小を行い、密にならないように少人数で行っています。また敬老会や忘年会などは、合同で行わず料理をいつもより豪華にしてもらいお祝い等行いました。

令和2年度	行事
4月	
5月	
6月	
7月	七夕会 園芸活動
8月	
9月	敬老会
10月	避難訓練
11月	
12月	クリスマス・忘年会
1月	福笑い会
2月	
3月	桜の花見 避難訓練(施設内のみ)

※毎月の誕生会

- ・家族会も新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しています。

◎地域行事

- ・11月に三潞校区介護予防教室に参加
地域の行事や予防教室なども新型コロナウイルス感染により開催が減っておりなかなか参加ができませんでした。